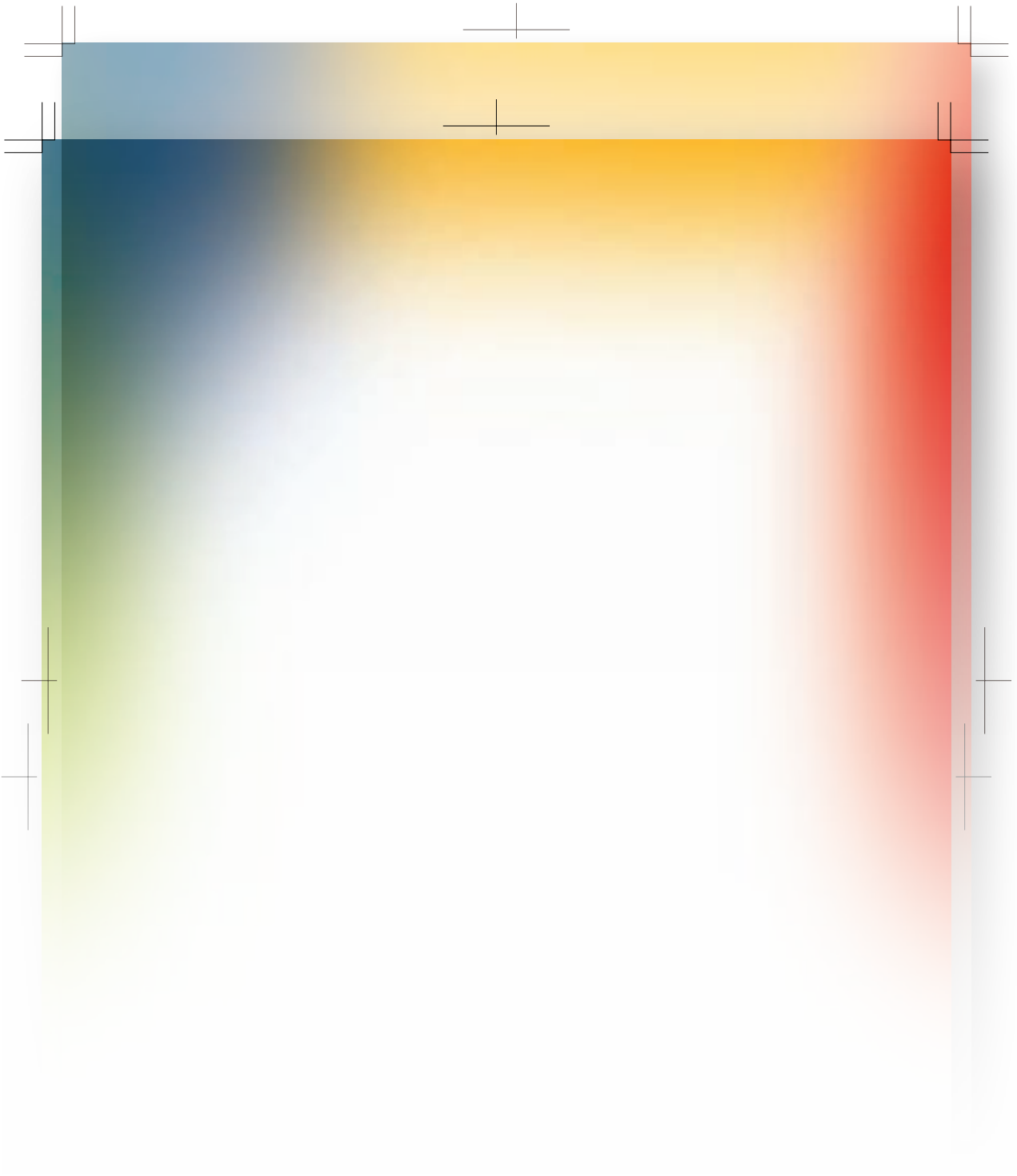


出 力 の 手 引 き



Adobe® Creative Suite 2

Adobe Photoshop® CS2 日本語版

Adobe Illustrator® CS2 日本語版

Adobe InDesign® CS2 日本語版

Adobe Acrobat® 7.0 Professional 日本語版



はじめに

『Adobe Creative Suite 出力の手引き』へようこそ。

この手引きは、Adobe InDesign CS2、
Adobe Illustrator CS2 ジョブを処理するときの
詳細な技術資料として、またトレーニングツールとして
ご活用いただけます。

この手引きは、個々の状況にあった情報を
すばやく検索できるように構成されています。

また、手引き全体を通読すれば、
出力に関する Adobe InDesign CS2 そして
Adobe Illustrator CS2 の機能を一通り理解することが
できます。出力についての概要とその使いこなしを
理解され、みなさまのビジネスの便利な
サポートツールとして常に身近に置いて
ご活用ください。

目次

データ出力までの流れ	2
------------	---

01 出力のためのデータ管理

フォントの管理	4
フォント形式について	4
フォントのインストールについて	4
フォント検索・置換	5
環境に無いフォントの処理	7
合成フォント	8
バンドルフォントについて	9
画像の管理	10
画像形式について	10
配置ファイルのステータス確認	11
配置ファイルの更新と置き換え	12
埋め込まれたファイルの解除	13
情報パレットから確認	13
カラーマネジメントの管理	14
Adobe アプリケーション間でカラー設定を同期させるには	15
カラー設定の詳細	15
カラープロファイルの埋め込みなしと不一致について	17

02 安全に出力するための最終確認

プリフライトとパッケージ	18
プリフライト	18
パッケージ	20
プレビュー	22
分版プレビュー	22

03 ファイル書き出しとプリント

データ書き出しについて	24
Adobe Creative Suite 2の新しいPDF機能	26
Adobe PDFファイルの書き出し	28
EPSファイルへのページの書き出し	45
Illustrator書類(.ai)の書き出し	51
プリント	53
プリントダイアログボックス	53
プリント設定の合理化: プリントプリセット	64

データ出力までの流れ

本書でサポートするデータ出力までの主な行程です。
必要に応じて「透明の手引き」もあわせてご参照ください。

01 出力のための データ管理

フォント ➡P4 ~ 9

画像 ➡P10 ~ 13

カラーマネジメント ➡P14 ~ 17

NEW
Adobe Creative Suite 2

Adobe Bridge によるカラーマネジメント ➡P14

02 安全に出力するための 最終

プリフ

パッケ

プレビ

透明効果に関する項目 (透明の手引き参照)

透明効果の設定

透明効果

「分割・統合プレビュー

確認

ライト ↗P18 ~ 20

ージ ↗P20 ~ 21

ュー ↗P22 ~ 23



03 ファイル書き出しとプリント

データ書き出し ↗P24 ~ 52

NEW Adobe Creative Suite 2 の新しい PDF 機能 ↗P26

出力 ↗P53 ~ 64

の確認

「」で確認する



透明の分割・統合の設定

適切なプリントプリセットを適用

フォントの管理

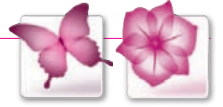
トラブルのない出力を得るためには、まずフォント形式を理解しなければなりません。フォント形式を十分に理解すれば、出力に関するトラブルは大幅に減ります。

OCFフォントについて
システムレベルでサポートされていないため、Adobe Creative SuiteにおいてOCFフォントは利用できません。

Adobe Creative Suiteで利用できるフォント形式は以下の通りです。

CIDフォント
TrueTypeフォント
OpenTypeフォント
欧文Type 1フォント

フォント形式について



フォント形式は、大きく分けて3種類に大別できます。PostScriptフォントとTrueTypeフォント及びOpenTypeフォントです。

PostScriptフォントはさらに3つに大別できます。数字や欧文を中心とした1バイト用のType1フォントと日本語や中国語など2バイト用のコンポジットフォントと2バイトフォントでありながらJISやシフトJIS、EUC、ユニコードなど様々な文字コード系に対応したCIDフォントです。コンポジットフォントは、別名OCFフォントとも呼ばれ、Type 1フォントの集合フォント群になります。OCFフォントは容量も大きくフォント管理も複雑です。CIDフォントは、グリフ(文字の形状)に関するデータはOCF形式のType 1フォントと同じですが、文字とグリフの管理方法にCMapファイルを導入したシンプルなファイル構造のため、ファイルサイズやメモリの使用量は少なく済みます。ちなみに、アウトラインデータとして一部にTrueType形式のデータを持っているフォントのことをType42フォントと呼びます。アウトラインデータの保持を除くと、Type 1と全く同様にPostScriptフォントとして扱うことができます。

OpenTypeフォントは、前述のType 1フォント(中身はCID形式)とTrueTypeフォントを一つに統合化したフォント形式です。Type 1フォントとTrueTypeフォントに同じヘッダを付けて一つのフォントとして扱える構造になっています。よって、OpenTypeフォントでは、Type 1フォントとTrueTypeフォントの両方が、どちらか一方のフォントデータを持っています。今まで、Macintoshでは文字セット83 JIS準拠のPostScriptフォント(Type 1フォント)、Windowsでは文字セット90 JIS準拠のTrueTypeフォントが中心に広く使われてきました。よって、出力に於いては互換性が難しく、トラブルの原因ともなっていました。OpenTypeフォントでは、複数のOSをサポートしたマルチプラットフォームでの利用を可能にしたフォント形式のため、このような問題は起こりません。

Adobe InDesign CS2およびAdobe Illustrator CS2では、このOpenTypeフォントにも対応しています。Adobe InDesign CS2は[書式] [字形]で、Adobe Illustrator CS2は[文字] [字形]で字形パレットを表示させ、異体字などを選択することも可能です。Adobe InDesign CS2ならびにAdobe Illustrator CS2は、TrueTypeフォント、CIDフォントとともにOpenTypeフォントも高解像度のイメージセッタに出力することが可能です。

フォントのインストールについて



フォントファイルをInDesign CS2およびIllustrator CS2フォルダの中のFontsフォルダにインストールすると、そのフォントを使用できるようになります。Fontsフォルダにインストールしたフォントは、インストールしたそれぞれのアプリケーションでのみ使用可能です。他のアプリケーションでは使用できません。

フォントをすべてのアプリケーションで使用できるように設定したい場合の、基本的な方法は以下の通りです。

Mac OS Xの場合

Mac OS Xには複数のフォントフォルダがあり、目的にあわせてインストールが可能です。</ライブラリ/Fonts>にインストールすることで全てのアプリケーションおよびユーザが利用できます。

Windowsの場合

システムドライブの<¥WINDOWS¥Fonts>にインストールします。

フォント検索・置換



Adobe InDesign CS2の場合

Adobe InDesign CS2でのフォントの確認は、[書式] [フォント検索]メニューから[フォント検索]ダイアログボックス(図01)を表示させるか、現在の環境で使用できないフォントがある場合は、ドキュメントを開く時に環境に無いフォントリストのダイアログボックスが表示(図02)されるので、そこから[フォント検索]ボタンをクリックして[フォント検索]ダイアログボックスを表示します。

[フォント検索]ダイアログボックスでは、ドキュメント内で使用されているフォント状況の一覧を見ることができます。[フォント検索]ダイアログボックスには、PostScriptフォント **a**、TrueTypeフォント **T**、OpenTypeフォント **O**、合成フォント **1**、配置されたグラフィック **1**、不明なフォント **A** といったフォント形式や状態を区別するアイコンが表示されます。



〔図01〕



〔図02〕

- a 環境に無いフォント
(インストールされていないかアクティブではないフォント)
- b ドキュメントで使用されているTrueTypeフォント
- c ドキュメントで使用されているPostScriptフォント
- d OpenTypeフォント
- e 合成フォントもしくはATCフォント
- f 配置したグラフィックで使用されているPostScriptフォント
- g 配置されたグラフィックに、環境に無いフォントが使用された場合

同一ドキュメント上では、同じフォントを何回使用していても、フォントの検索ダイアログボックスにリスト表示されるフォント名は1つですが、配置したグラフィックで使用している場合は、各グラフィックごとにフォント名がリスト表示されます。例えば、ドキュメント上で同じフォントを3箇所で使用し、配置した3つのグラフィックでも使用している場合、そのフォントはフォントの検索ダイアログボックスには4つがリスト表示されます(ドキュメント上のテキストに対する使用に対して1つ、配置した各グラフィックでの使用に対して3つになる)。

注意

ストーリーエディタウィンドウでは、「フォントの検索」コマンドは使用できません。

リストで複数のフォントを選択すれば、それらを同じフォントに置換することができます。ただし、フォントの出現箇所を検索したり、フォントの詳細を表示したりできるのは、リストで1つのフォントを選択した場合のみです。

注意

合成フォントを検索したり置換することもできます。ただし、合成フォントを欧文フォントに置き換えると、テキストの一部が文字化けすることがあります。



[図03]

[詳細情報] をクリックすると、フォントごとにさらに詳しい情報を得ることができます [図03]。例えば、使用できないフォントがドキュメントの何ページ目に存在しているかを知ることができます。ここでは使用できないフォントを使用可能なフォントに検索置換することができますが、置換したフォントの字形によってはレイアウトが崩れる場合がありますので、置換後はレイアウトのチェックが必要となります。

便利な機能としては、Adobe InDesign CS2に貼り込まれたEPSファイルやPDFファイルのデータ内にあるフォントも認識することができます。貼り込みデータの中に出力できないフォントがある場合、[詳細情報] からどのデータにフォントに無いのかをすぐを知ることができます。

但し、貼り込みデータの場合、フォント検索はできますがフォントの置換まではできません。この問題は、そのフォントを取得するか、または元のアプリケーションでグラフィックを開いてフォントを変更することで解決する必要があります。

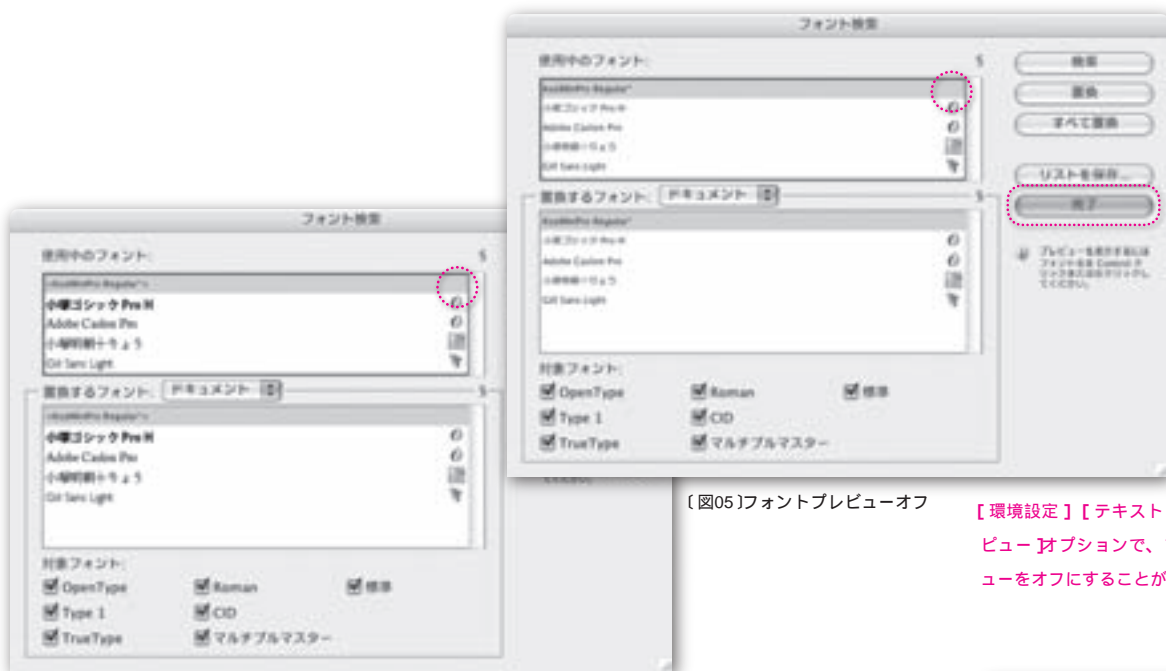
Adobe Illustrator CS2の場合



Adobe Illustrator CS2でのフォントの確認は、[文字] [フォントの検索・置換] メニューから [フォントの検索・置換] ダイアログボックスを表示させます。[フォントの検索・置換] ダイアログボックスでは、フォント名がそのフォントでプレビューされるので、フォントを選択するときに便利です。またAdobe InDesign CS2同様のアイコンでフォント形式が表示されます [図04]。

環境に無いフォント(インストールされていないかアクティブではないフォント)を含む場合、[フォントの検索・置換] ダイアログボックスにフォント名はリストはされますがフォント形式がアイコン表示されません [図05]。検索コマンドを使用して、環境に無いフォントを置き換えてください。ただし、フォントを変更するとテキスト組版が変更される可能性があるため、置換後はレイアウトのチェックが必要です。

[リストを保存] を利用すると、フォントのリストを個別のファイル [図06] として保存できるので、ファイルを印刷・出力会社でプリントするときなどに便利です。作成したファイルリストは、テキストファイルの読み込み可能なアプリケーションで開くことができます。



〔図04〕フォントプレビューオン

〔図05〕フォントプレビューオフ

【環境設定】【テキスト】【フォントプレビュー】オプションで、フォントのプレビューをオフにすることができます。



〔図06〕

環境に無いフォントの処理



Adobe InDesign CS2の場合

環境に無いフォントを使っているテキストを選択すると、文字パレットやコントロールパレットのフォントファミリメニューでは、フォント名がブラケット([])で囲まれて表示されます。

通常、Adobe InDesign CS2では、システムにないフォントは使用可能なフォントに置換されます。このような場合は、テキストを選択して他の使用可能なフォントを適用することもできます。置換されたシステムにないフォントは、[書式] [フォント]のサブメニュー最上部にある[無効]に表示されます〔図07〕。デフォルトでは、環境に無いフォントはピンクで強調色表示されます。

また、Adobe InDesign CS2では、フォントエラーやフォント置換のプロセスが改善されました。環境に無いフォントは、たとえ名前が同じでフォント形式が異なるフォントが存在していても報告されます。例えば、Helvetica (Type 1)が環境に無い場合、HelveticaのTrueTypeバージョンがシステムでアクティブになっていても、環境に無いフォントの警告が表示されます。また、環境に無いType 1バージョンのフォントが、TrueTypeバージョンのフォントに自動的に置換されることもありません。これは、フォント形式の違いによって組版が変更されてしまうのを防ぐためです。

また、1つのフォントが複数の形式でアクティブになっている場合には、メニュー内のそれぞれのフォント名の後に、形式を表すラベル〔図08〕が表示されます。例えば、Helvetica TrueTypeフォントは「Helvetica (TT)」、Helvetica PostScript Type 1フォントは「Helvetica (T1)」、Helvetica OpenTypeフォントは「Helvetica (OTF)」というように表示されます。但し、2つのフォントが同じPostScript名を持っていたり、一方が名前に「.dfont」を持っている場合は、代用フォントが使用されます。



〔図07〕



〔図08〕



Adobe Illustrator CS2の場合

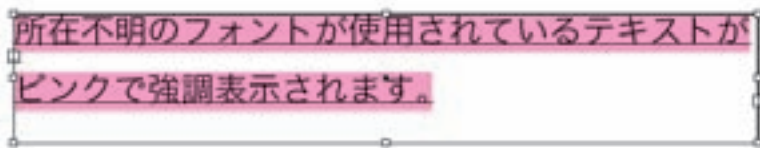
システムにインストールされていないフォントを含む書類を開いたり配置したりすると、所在不明のフォントを示す警告メッセージが表示されます。所在不明のフォントは初期設定のフォントで代用表示されます。

書類内の代用表示されたフォントを強調表示するには、[ファイル] [ドキュメント設定]を選択し、ダイアログボックス上部のポップアップメニューで「書式」を選択します。「代替フォント」を選択して、「OK」をクリックします〔図09〕。

このオプションを選択すると、所在不明のフォントが使用されているテキストはピンクで強調表示されます〔図10〕。



〔図09〕



〔図10〕

Adobe Illustrator CS2では、合成フォント機能を使用したドキュメントを開くとき、環境に無いフォントの警告が表示された場合には、警告と併せて問題となっているフォントの構成が表示されます。

合成フォント

Adobe InDesign CS2の場合



合成フォント機能を使用したドキュメントを開くとき、環境に無いフォントの警告が表示された場合、ここではそのまま[OK]にします。合成フォントの場合[フォント検索]ダイアログボックスの[詳細設定]のPostScript名が正確に表示されません。合成フォントの詳細は[書式] [合成フォント]メニューから[合成フォント編集]ダイアログボックスを表示させて中身を確認・編集していきます。

また、別の方法としてパッケージの機能(Page 20 「パッケージ」を参照)を利用し、その際に作成されたレポート〔図11〕で確認ができます。



〔図11〕

バンドルフォントについて



Adobe Creative Suiteには豊富なフォントがあらかじめ用意されています。以下の場所にインストールされます。

Mac OS Xの場合

[起動ディスク]/ライブラリ/Application Support/Adobe/Fonts

Windowsの場合

[起動ディスク] ¥Program Files¥Common files¥Adobe¥Fonts

フォントをAdobe製品以外のすべてのアプリケーションで使用できるように設定したい場合は、使用中のシステムにインストールする必要があります。

(Page 4 「フォントのインストールについて」を参照)

バンドルフォント一覧

Creative Suite 2 Extras

欧文		
Warnock Pro	Total 32	
Light	0123 ABC abc	
Light Caption	0123 ABC abc	
Light Display	0123 ABC abc	
Light Subhead	0123 ABC abc	
Light Italic	0123 ABC abc	
Light Italic Caption	0123 ABC abc	
Light Italic Display	0123 ABC abc	
Light Italic Subhead	0123 ABC abc	
Caption	0123 ABC abc	
Display	0123 ABC abc	
Regular	0123 ABC abc	
Subhead	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Italic Caption	0123 ABC abc	
Italic Display	0123 ABC abc	
Italic Subhead	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Caption	0123 ABC abc	
Semibold Display	0123 ABC abc	
Semibold Subhead	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Semibold Italic Caption	0123 ABC abc	
Semibold Italic Display	0123 ABC abc	
Semibold Italic Subhead	0123 ABC abc	
Bickham Script Pro	Total 3	
Regular	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	

InDesign CS2

欧文		
Adobe Caslon Pro	Total 6	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Italic	0123 ABC abc	
Adobe Garamond Pro	Total 4	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Cafisch Script Pro	Total 1	
Regular	0123 ABC abc	
Adobe Jenson Pro	Total 8	
Light	0123 ABC abc	
Light Italic	0123 ABC abc	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Italic	0123 ABC abc	
Myriad Pro	Total 10	
Light	0123 ABC abc	
Light Italic	0123 ABC abc	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Italic	0123 ABC abc	
Black	0123 ABC abc	
Black Italic	0123 ABC abc	
Letter Gothic Std	Total 4	
Medium	0123 ABC abc	
Slanted	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Slanted	0123 ABC abc	
Trajan Pro	Total 2	
Regular	0123 ABC AB	
Bold	0123 ABC AB	
Poplar Std	Total 1	
Black	0123 ABC abc	
Lithos Pro	Total 5	
Extra Light	0123 ABC abc	
Light	0123 ABC abc	
Regular	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Black	0123 ABC abc	

和文		
Ryo Text	Total 4	
EL	いろはにほへと	
L	いろはにほへと	
R	いろはにほへと	
M	いろはにほへと	
Ryo Display	Total 5	
M	いろはにほへと	
SB	いろはにほへと	
B	いろはにほへと	
EB	いろはにほへと	
H	いろはにほへと	
小塚明朝 Pro	Total 6	
EL	美しい日本語の	
L	美しい日本語の	
R	美しい日本語の	
M	美しい日本語の	
B	美しい日本語の	
H	美しい日本語の	

Illustrator CS2

欧文		
Adobe Caslon Pro	Total 6	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Italic	0123 ABC abc	
Adobe Garamond Pro	Total 4	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Charlemagne Std	Total 2	
Regular	0123 ABC	
Bold	0123 ABC	
Minion Pro	Total 6	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Italic	0123 ABC abc	
Bernhard Modern Std	Total 4	
Roman	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Italic	0123 ABC abc	
Century Old Style Std	Total 3	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Trajan Pro	Total 2	
Regular	0123 ABC AB	
Bold	0123 ABC AB	
Chaparral Pro	Total 8	
Light	0123 ABC abc	
Light Italic	0123 ABC abc	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Italic	0123 ABC abc	
Nueva Std	Total 6	
Light	0123 ABC abc	
Light Italic	0123 ABC abc	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Italic	0123 ABC abc	
Myriad Pro	Total 10	
Light	0123 ABC abc	
Light Italic	0123 ABC abc	
Regular	0123 ABC abc	
Italic	0123 ABC abc	
Semibold	0123 ABC abc	
Semibold Italic	0123 ABC abc	
Bold	0123 ABC abc	
Bold Italic	0123 ABC abc	
Black	0123 ABC abc	
Black Italic	0123 ABC abc	

中韓文		
Adobe Myungjo Std	Total 1	
M	동해불과백두	
Adobe Ming Std	Total 1	
L	壹貳參肆伍陸	
Adobe Song Std	Total 1	
L	壹貳參肆伍陸	



画像の管理

ベクトルグラフィックは、数式的な情報で定義された直線と曲線で構成されており、解像度に依存しないため、サイズを変更しても画質が劣化することはありません。表示や印刷では、ピクセルが使用されますが、これは各デバイスの持つ解像度によって決まるもので、ベクトルグラフィック自体の解像度によるものではありません。身近なベクトルグラフィックでは、Adobe IllustratorやAdobe InDesignの描画ツールで作成したオブジェクトです。

ビットマップ画像は、格子状に配置されるピクセルという小さな正方形によって構成されています。ビットマップ画像のピクセル数は固定されていますので、ベクトルグラフィックと異なり解像度に依存します。そのため、画面上で拡大縮小したり、作成時の解像度より高い解像度で印刷すると、ギザギザに表示されたり、細部が失われる場合があります。Adobe Photoshopなどのペイントソフトで作成された画像はビットマップ画像です。

画像形式について



画像を扱う上で、まずはじめに気を付けなければならないこと、それは「カラーモードはRGBかCMYKか」です。カラーモードは、使用目的により異なります。一般に、色分解出力やカラープリンタへ出力するのであればCMYKで作業を行います。Webで使用するならばRGBにします。次に、「ファイルフォーマットを何にするか」を決めます。プリントが最終出力形態とすると、ビットマップ画像はCMYKのTIFFかEPS形式、ベクトルグラフィックではCMYKのEPS形式が一般的です。Adobe InDesign CS2およびAdobe Illustrator CS2では、TIFFやEPS形式以外にも、Adobe Photoshop (PSD形式)やAdobe Illustrator (AI形式)のネイティブ形式をサポートします。また、信頼性が高く、多様性に富んだPDF形式のファイルも配置可能です。Adobe Creative Suiteは、PSDやAI形式といったネイティブ形式やPDF形式を有効に活用することで、シームレスで効率的なワークフローを構築し、また創造性に優れた制作をサポートします。

PSD形式: Adobe Photoshop 4以降で作成されたオブジェクトを配置することができます。パス、マスクまたはアルファチャンネルを含むPSD形式の画像は、Adobe InDesign CS2上で背景を削除して透明なオブジェクトのようにしたり、オブジェクトの周囲にテキストの回り込みを行ったりすることができます。また、複数の特色チャンネルを含む画像やダブルトーンの画像の配置と正確な出力をサポートしました。配置されたPSD形式の画像は、常に高解像度表示されます。

Adobe Illustrator CS2では、編集可能なアイテムとして、レイヤー、パス、テキストを読み込むことができます。

AI形式(Adobe InDesign CS2に配置): Adobe Illustrator 5.5以降で作成されたオブジェクトを配置することができます。透明機能を含んでいる場合は、透明は維持され、下にあるオブジェクトを透かして見るすることができます。また、Adobe Illustratorのドキュメントからアートワークをコピー＆ペーストまたはドラッグすることで、Adobe InDesign CS2上でグループ化された編集可能なオブジェクトとして配置されます。テキストは、文字ツールでは編集できないアイテムとして読み込まれます。

PDF形式: ベクトルグラフィックとビットマップ画像、テキストを同一ファイル上に保持することができるファイル形式です。JPEG2000で圧縮された画像が含まれているPDF1.5ファイルまで読み込むことができます。

多くのファイル形式に対応するAdobe InDesign CS2およびAdobe Illustrator CS2において、最終出力媒体ごとに有効なフォーマットとカラーモードを以下にまとめます。

商業印刷 (色分解出力)	ベクトルグラフィック	Illustrator、PDF、EPS (すべてCMYKカラーモード)
	ビットマップ画像	Photoshop、PDF、TIFF、EPS、DCS2 (すべてCMYKカラーモード)
低解像度 プリント	ベクトルグラフィック	Illustrator、PDF、EPS (すべてCMYKカラーモード)
	ビットマップ画像	Photoshop、PDF、TIFF、EPS (すべてCMYKカラーモード)
Web	ベクトルグラフィック	Illustrator、PDF (すべてRGBカラーモード)
	ビットマップ画像	Photoshop、PDF、TIFF、JPEG (すべてRGBカラーモード)

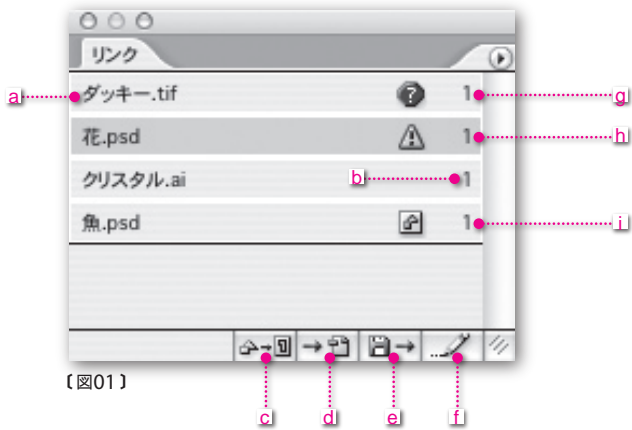
配置ファイルのステータス確認



基本的に、ビットマップ画像やベクトルグラフィックは、埋め込まずにリンクとして配置します。埋め込まれたファイルの編集は非常に困難であり、また、埋め込まれたファイルの容量が、ドキュメントファイルの容量に加算され大きくなるからです。

Adobe InDesign CS2の場合

ドキュメントに配置された画像ファイルは、リンクパレット〔図01〕に表示されます。リンクパレットには、配置されたファイルのステータスやファイル形式、カラースペースなどの詳細リンク情報が集約されます。リンクパレットには、リンクされたファイルが、正常なリンク（アイコンなし）、無効なリンク（?）、変更されたリンク（!）、埋め込まれたファイル（📎）のいずれかで表示されます。詳細情報を表示するには、リンクパレット内のリンクファイルをダブルクリックするか、リンクファイルを選択してサブメニューから「リンク情報」を選択します。リンクパレットを表示するには、[ウィンドウ] [リンク]を選択します。



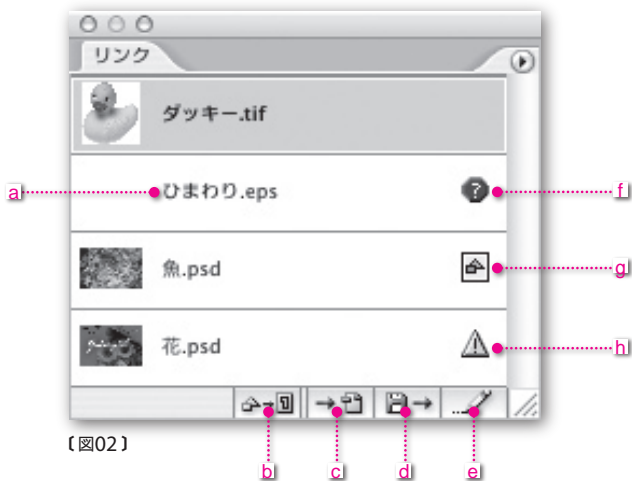
- a リンクファイル名
- b 配置ページ番号
- c 再リンクボタン
- d ファイル表示ボタン
- e リンク更新ボタン
- f 元データ編集ボタン
- g 無効なリンク
(元のパスをたどっても見つからないファイル)
- h 変更されたリンク
(ドキュメントに配置された後に変更されたファイル)
- i 埋め込まれたファイル
(ドキュメントに埋め込まれたファイル)

〔図01〕



Adobe Illustrator CS2の場合

ドキュメントに配置された画像ファイルは、リンクパレット〔図02〕に表示されます。リンクパレットには、配置されたファイルのステータスやファイル形式などの詳細リンク情報が集約されます。リンクパレットには、リンクされたファイルが、正常なリンク（アイコンなし）、見つからないリンク（?）、修正されたリンク（!）、埋め込まれた画像（📎）のいずれかで表示されます。リンクパレットを表示するには、[ウィンドウ] [リンク]を選択します。



- a リンクファイル名
- b 再リンクボタン
- c ファイル表示ボタン
- d リンク更新ボタン
- e 元データ編集ボタン
- f 無効なリンク
(元のパスをたどっても見つからないファイル)
- g 埋め込まれたファイル
(ドキュメントに埋め込まれたファイル)
- h 変更されたリンク
(ドキュメントに配置された後に変更されたファイル)

〔図02〕

配置ファイルの更新と置き換え



Adobe InDesign CS2の場合

配置されたファイルのステータスが正常な状態ではない場合、更新や置き換えをします。ドキュメントを開く時にステータスが「無効なリンク」や「変更されたリンク」のリンクファイルを含んでいる場合には、リンクの更新ダイアログ〔図03〕が表示されます。この問題をただちに解決するには、[リンクを自動修復]をクリックします。無効なリンクある場合は、再リンクするかどうか尋ねられ、変更されたリンクがある場合は、自動的に更新されます。また、[修復なし]をクリックして、ドキュメントを開いた後に手動で再リンクや更新をすることもできます。



〔図03〕

ドキュメントを開いた状態で、無効なリンクや変更されたリンクを再リンク、更新するには、リンクパレットを使用します。

無効なリンクを再リンクするには：

リンクパレットの無効なリンクアイコン が表示されている1つあるいは複数のリンクファイルを選択します。再リンクボタン をクリックし、検索ダイアログボックスが表示されますので、ファイルを選択したら[開く]をクリックします。

変更されたリンクを更新するには：

リンクパレットの変更されたリンクアイコン が表示されている1つあるいは複数のリンクファイルを選択します。リンクの更新ボタン をクリックします。



Adobe Illustrator CS2の場合

配置されたファイルのステータスが正常な状態ではない場合、更新や置き換えをします。ドキュメントを開く時にステータスが「見つからないリンク」のリンクファイルを含んでいる場合には、置換ダイアログ〔図04〕が表示されます。



見つからないファイルを探す場合は「修復」、別のファイルを選択する場合は「置換」を選択します。リンクをそのまま変更しない場合は「無視」を選択します。





〔図04〕

ドキュメントを開いた状態で、見つからないリンクや修正されたリンクを再リンク、更新するには、リンクパレットを使用します。

見つからないリンクを再リンクするには：

リンクパレットの見つからないリンクアイコン  が表示されているリンクファイルを選択します。リンクを再設定ボタン  をクリックし、配置ダイアログボックスが表示されますので、ファイルを選択したら [配置] をクリックします。

修正されたリンクを更新するには：

リンクパレットの修正されたリンクアイコン  が表示されている1つあるいは複数のリンクファイルを選択します。リンクを更新ボタン  をクリックします。

注意


配置ダイアログボックスの「リンク」をオフの状態に配置すると、ドキュメントに配置と同時に埋め込まれます。

埋め込まれたファイルの解除



Adobe InDesign CS2では、配置ファイルが埋め込まれていても、埋め込み前の配置ファイルの場所を記憶しているため、埋め込みを解除することができます。また、埋め込み前の配置ファイルが同じ場所でない場合でも、再リンクすることで、埋め込みを解除し、リンクすることができます。

埋め込みファイルを解除するには：

リンクパレットの埋め込まれたファイル  を選択します。リンクパレットメニューから「埋め込みなしのファイル」を選択します。ダイアログボックス [図05] が表示され、元のファイルにリンクする場合は [はい]、埋め込まれたファイルから新たに作成されるファイルにリンクする場合は [いいえ] を選択します。

注意

ダイアログボックスの [はい] は、配置したときにファイルがあった場所と同じ場所にリンクファイルがある場合にのみ、正常にリンクされます。また、[いいえ] を選択した場合、新たに作成されたファイルが埋め込まれたファイルの替わりとして適切か確認する必要があります。



[図05]

情報パレットから確認



Adobe InDesign CS2にある情報パレットから、リンクパレットでは取得できない情報を確認することができます。位置やサイズに加え、配置したビットマップ画像のオリジナル解像度「実際のppi」とドキュメント上でサイズ変更された後の解像度「効果的なppi」も確認することができます。特に高解像度出力をする場合に、画像の解像度が十分かどうかすぐに評価できます。また、ファイル形式やカラースペース、カラーマネジメントが有効な場合にはICCカラープロファイルも表示されます。情報パレットを表示するには、[ウィンドウ] [情報] を選択します。

なお、「プリフライト」コマンドでは、すべての配置画像の情報がリスト表示されます。詳しくは、Page 18「プリフライトとパッケージ」を参照ください。



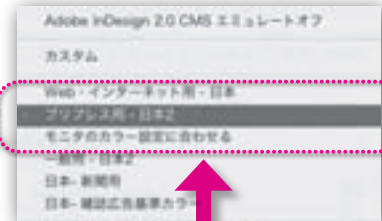
カラーマネジメントの設定

カラーマネジメントを行うほとんどのワークフローには、あらかじめ提供されるプリセットカラー設定を使用することを勧めます。

カラーマネジメントシステムを使用すると、画像を取り込んだり、ドキュメントを編集してAdobeアプリケーション間でやり取りしたり、最終成果物を出したりするとき、色の外観を簡単に保持することができます。Adobe Creative Suiteでは、アプリケーション間でカラー設定が同期されるため、RGB カラーとCMYKカラーは一貫して表示されます。つまり、色はどのアプリケーションで表示しても同じ色に見えます。Creative Suiteの各アプリケーションが使用するカラー設定の同期はAdobe Bridgeによって一元的に行われます。

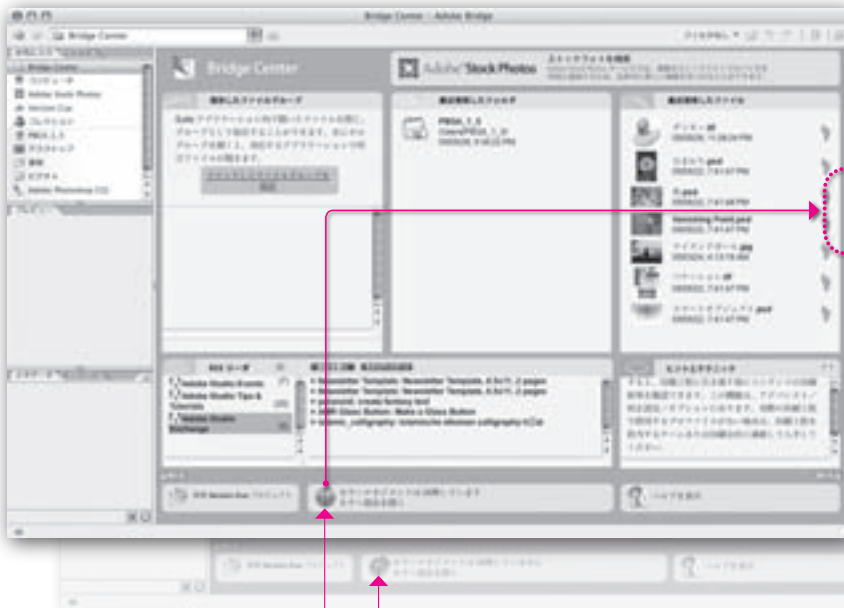


InDesign CS2

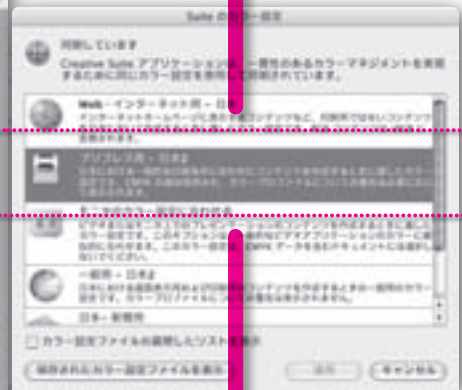


Adobe Bridgeによる一元管理

Adobe Bridgeのメイン画面



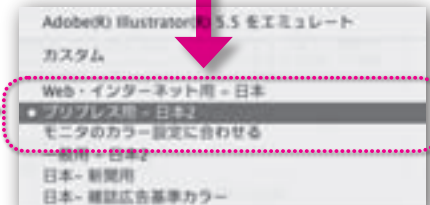
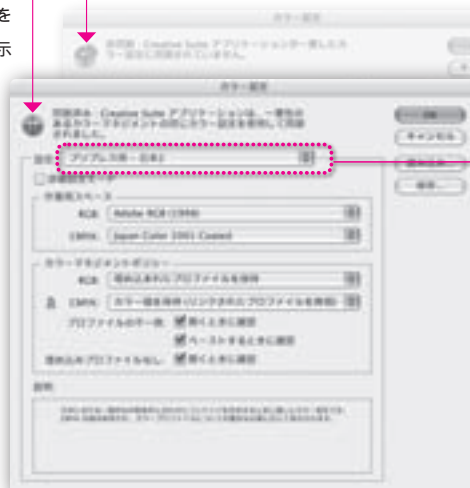
カラー設定の同期・非同期をアイコンで表示



Adobe Bridgeによる一元管理



Illustrator CS2



Adobe アプリケーション間でカラー設定を同期させるには

- 1 Adobe Bridgeを開きます。
- 2 他のCreative SuiteアプリケーションからAdobe Bridgeを開くには、そのアプリケーションで[ファイル] [参照]を選択します。Adobe Bridgeを直接開くには、スタートメニューからAdobe Bridgeを選択する(Windows)、またはAdobe Bridgeアイコンをダブルクリック(Macintosh)します。
- 3 [編集] [Creative Suiteのカラー設定]を選択します。
- 4 表示された一覧からカラー設定を選択し、「適用」をクリックします。



カラー設定の詳細

作業用スペース

作業用スペースは、Adobeアプリケーションにおける色の定義と編集に使用される中間のカラースペースです。各カラーモデルにはそれぞれ作業用スペースプロファイルが関連付けられます。

RGB: アプリケーションのRGBカラースペースを決定します。一般に、特定の機器のプロファイル(モニタプロファイルなど)ではなく、Adobe RGBまたはsRGBを選択することをお勧めします。

CMYK: アプリケーションのCMYKカラースペースを決定します。すべてのCMYK作業用スペースは機器に依存します。つまり、この作業用スペースは実際のインクと用紙の組み合わせに基づきます。Adobeが提供するCMYK作業用スペースは標準の商業印刷条件に基づいています。

カラーマネジメントポリシーのオプション

ドキュメントを開いたり画像を読み込んだりしたとき、カラーマネジメントポリシーによってアプリケーションによるカラーデータの処理方法が決まります。RGB画像用とCMYK画像用にそれぞれ異なるポリシーを選択することができ、警告メッセージが表示されるタイミングを指定することもできます。カラーマネジメントポリシーを表示するには[編集] [カラー設定]を選択します。

RGBとCMYK: ファイルを開いたり現在のドキュメントに画像を読み込んだりするとき、色を現在の作業用スペースに変換するために従うポリシーを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

埋め込まれたプロファイルの保持: ファイルを開くときに、埋め込まれたカラープロファイルを常に保持します。このオプションを選択すると一貫したカラーマネジメントが行われるので、このオプションはほとんどのワークフローにお勧めします。ただし、CMYK番号を保持する必要がある場合は例外です。その場合は、「番号を保持/カラー値を保持(リンクされたプロファイルを無視)」を代わりに選択する必要があります。

作業用スペースに変換: ファイルを開いたり画像を読み込んだりするとき、色を現在の作業用スペースプロファイルに変換します。このオプションを選択するのは、特定のプロファイル(現在の作業用スペースプロファイル)をすべての色に対して強制的に使用する必要がある場合です。

番号を保持/カラー値を保持(リンクされたプロファイルを無視): このオプションは、InDesignおよびIllustratorでCMYKに対して使用できます。プロファイルが埋め込まれたCMYK画像を開いたり読み込んだりすると、アプリケーションによってプロファ

複数のAdobeアプリケーションを使用している場合は、新規または既存のドキュメントで作業する前にカラー設定を同期させることをお勧めします。

単一のAdobeアプリケーションを使用している場合や、高度なカラーマネジメントオプションをカスタマイズする場合は、特定のアプリケーションのカラー設定を変更します。

ポリシーの説明を見るには、ポリシーを選択し、ポリシー名の上にポインタを合わせます。ダイアログボックスの下部に該当する説明が表示されます。

イルが無視され、作成時のCMYKカラー番号が保持されます。ただし、Adobeアプリケーションで正確な色を再現するためにカラーマネジメントを使用することもできます。InDesignでは[オブジェクト] [画像カラー設定]を選択することによって、オブジェクトごとにこのポリシーを無効にすることができます。

オフ: ファイルを開いたり、画像を読み込んだりするときに、埋め込まれたカラープロファイルが無視します。また、新規のドキュメントに作業用スペースプロファイルを割り当てません。このオプションを選択するのは、ドキュメントの作成者によって提供されるカラーメタデータをすべて廃棄する場合です。

プロファイルの不一致

開くときに確認: 開くドキュメントに現在の作業用スペース以外のプロファイルのタグが付けられている場合は、常にメッセージが表示されます。初期設定の処理オプションをどの方法にするかのメッセージが表示されます。このオプションを選択するのは、ドキュメントの適切なカラーマネジメントを状況に応じて行うことが必要な場合です。

ペーストするときに確認: コピー&ペーストやドラッグ&ドロップによって色がドキュメントに読み込まれる場合に、カラープロファイルの不一致が生じると、常にメッセージが表示されます。初期設定の処理オプションをどの方法にするかのメッセージが表示されます。このオプションを選択するのは、コピー&ペーストやドラッグ&ドロップする色の適切なカラーマネジメントを状況に応じて行うことが必要な場合です。

埋め込みプロファイルなし

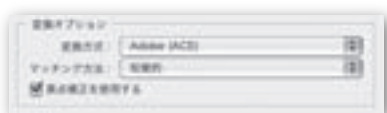
開くときに確認: タグなしドキュメントを開くときは、常にメッセージが表示されません。初期設定の処理オプションをどの方法にするかのメッセージが表示されます。このオプションを選択するのは、ドキュメントの適切なカラーマネジメントを状況に応じて行うことが必要な場合です。

変換オプション

変換方式: カラースペース間で色域をマッピングするために使用する Color Management Module (CMM)を指定します。初期設定のAdobe (ACE)エンジンは、ほとんどのユーザーに適しており、必要なすべてのカラー変換を実行できます。

マッチング方法: カラースペース間で色の変換に使用するマッチング方法を指定します。テスト済みの初期設定のマッチング方法(業界標準に準拠)を使用することをお勧めします。日本におけるカラー設定を選択する場合、初期設定のマッチング方法は「知覚的」です。カラー値が変更された場合でも、人の目に色が自然に映るように、色間の視覚的な関係を保護します。このマッチング方法は、色域外の色が多く含まれる写真画像に最適です。これは日本の印刷業界における標準のマッチング方法です。

黒点の補正を使用: 出力機器のダイナミックレンジの全範囲をシミュレートすることによって、画像内の暗い部分の詳細が失われないようにします。印刷時に黒点の補正を使用する予定の場合は、このオプションを選択します(ほとんどの状況で推奨)。



プリセットカラー設定の保存場所

ここに保存されたプリセットカラー設定は、すべてのユーザーで使用することができます。

Mac OS Xの場合 [起動ディスク]/ライブラリ/Application Support/Adobe/Color/Settings

Windowsの場合 [起動ディスク]¥Program Files¥Common files¥Adobe¥Color¥Setting

カラープロファイルの埋め込みなしと不一致について

プロファイルが埋め込まれていないか、作業用スペースと一致しない場合は、カラー設定ダイアログボックスで設定しているオプションに従って、アプリケーションによって警告メッセージが表示される場合があります。

警告メッセージはアプリケーション間で異なりますが、共通に次のオプションが用意されています。

1 ドキュメントまたは読み込んだカラーデータを保持する

例えば、ドキュメントにカラープロファイルが埋め込まれている場合はそのプロファイルを使用するか、プロファイルが埋め込まれていない場合は何も処理をしないでそのまま開くか、コピー & ペーストやドラッグ&ドロップされたカラーデータ内のカラー番号を保持するかを選択することができます。

2 カラープロファイルが一致しないドキュメントを開く時

プロファイルを廃棄するか、ドキュメント内の色を現在の作業用スペースに変換するかを選択することができます。カラーデータを読み込むときは、色の外観を保持するために色を現在の作業用スペースに変換するかどうかを選択することができます。

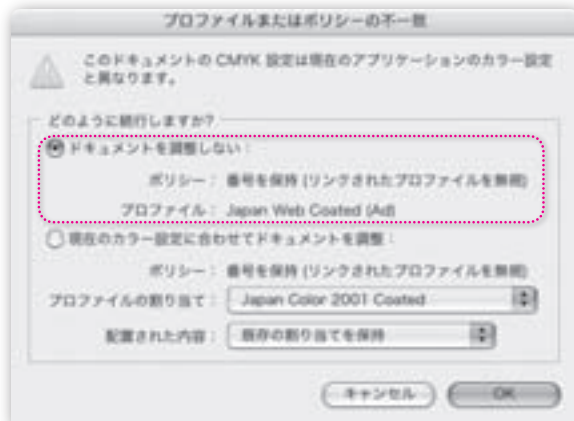
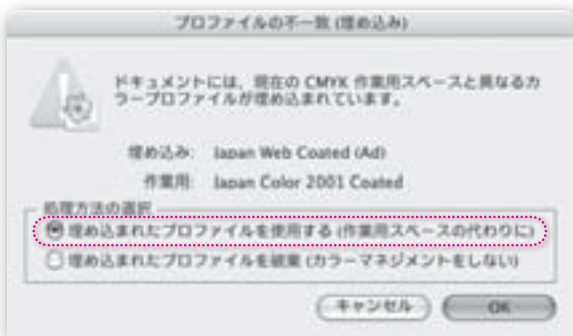
3 ドキュメントまたは読み込んだカラーデータを調整

例えば、カラープロファイルが埋め込まれていないドキュメントを開くときは、現在の作業用スペースプロファイルを割り当てるか、異なるプロファイルを割り当てるかを選択することができます。

読み込んだグラフィックをカラーマネジメント対応にするAdobeアプリケーションで、読み込んだグラフィックをカラーマネジメント対応にするには、次の一般的なガイドラインに従います。

保存するときに、ICC準拠のプロファイルを埋め込みます。プロファイルの埋め込みをサポートしているファイル形式はjpeg、pdf、psd (Photoshop)、ai (Illustrator)、indd (InDesign)、およびti です

プロファイルの不一致および埋め込まれていない場合の設定例



プリフライトとパッケージ

プリフライト

プリフライトとは、飛行機の離陸前の点検する行為からきており、DTPワークフローでは、制作ドキュメントに対し問題となりえる項目を検査することを意味します。プリフライトは、出力時に行うのが通常ですが、出力ビューローや印刷会社へ入稿するデータが安全かどうか、信頼できるかどうかをチェックするためにも、入稿前にプリフライトを行うようにします。




Adobe InDesign CS2の場合

Adobe InDesign CS2に搭載されているプリフライトは、ドキュメントの構成要素(フォントやリンクされているオブジェクト)に不正や不足がないかを自動で検査し、その結果を分かりやすくリスト表示します。また、プリフライトパネルの「パッケージ」をクリックすると、続けてパッケージが始まりますので、入稿準備などには便利です。プリフライトを行うには、[ファイル] [プリフライト]を選択します。

プリフライトパネル

注意

印刷領域外にあるオブジェクトは、「プリフライト」や「パッケージ」の対象にはなりません。

概要: ファイルを出力する前に注意する必要がある問題が見つかった場合には、警告アイコン  が表示されます。詳細情報を表示するには、それぞれのパネル名(フォント、リンクと画像、カラーとインキ、プリント設定、および外部プラグイン)をクリックします。

フォント: ドキュメント内に使用されているフォント(合成フォントがある場合は、合成フォントと構成しているすべてのフォント)のステータスを確認できます。リンクされたEPSやPDF、Adobe Illustratorファイル(AI形式)内に使用されているフォントもリストされます。ステータスの「OK」はフォントが正常に認識されている、「埋め込み」は配置されたオブジェクトにフォントが埋め込まれている、「不完全」は環境内にスクリーンフォントは存在するがプリンタフォントが無い、「無効」は環境にフォントが無いことを表し、無効がある場合に警告が発生します。環境に無いフォントを検索・置換するには、「フォント検索」をクリックします。詳しくは、Page4「フォントの管理」を参照ください。



プリフライトパネル「フォント」

リンクと画像: ドキュメント内のリンクされたビットマップ画像やベクトルグラフィック、PDFファイル、およびテキストファイルの詳細情報を確認できます。リンクされているファイルが変更されている場合やリンクが見つからない場合、またリンクデータにRGBデータやICC Profileが埋め込まれているデータがある場合に警告されます。警告の内容がステータスの場合、[更新] [再リンク]をクリックし、変更されているリンクや無効なリンクを正常にします。[すべてを修復]は、変更されたリンクや無効なリンクをまとめて解決する場合に便利です。RGBデータやICC Profileが埋め込まれているデータの場合、解決するには元データを編集する必要があります。詳しくは、Page 10「画像の管理」を参照ください。

また、リンクと画像パネルには2つの解像度が表示されます。「実際のppi」は、元のファイルで指定された解像度です。「効果的なppi」は、ドキュメントの中で画像のサイズが変更された場合の変更後の解像度を表します。「効果的なppi」が実際に処理される解像度になるので、高解像度出力を行う場合に、適切な解像度かどうかを確認するのに有効です。



プリフライトパネル「リンクと画像」

カラーとインキ: ドキュメントで使用されているインキが表示されます。配置されているファイル内のインキも含めた、ドキュメントで使用されているすべてのインキがリストされます。スイッチに定義されていても未使用であるインキはリストされません。

プリント設定: ドキュメントの現在のプリント設定がまとめられます。事前にドキュメントの出力状態を確認することができます。ここにある設定を、スタイルとして定義することができます。また、スタイルは書き出しや読み込みができますので、スタイルを出力データファイルとしてやりとりすることが可能です。

外部プラグイン: ドキュメントで使用されているプラグインのうち、購入時のInDesignには含まれていないプラグインがまとめられます。

注意

プリフライトでは、Adobe Photoshopで保存されたPSD、TIFF、EPSファイル(PDFは除く)のRGBデータが検出できません。しかし、Adobe Photoshopではない(Adobe Illustratorなど)EPSやPDFファイル内にあるRGBデータは検出されません。これらを使用する場合は、保存する前に、RGBデータが含まれていないか確認する必要があります。

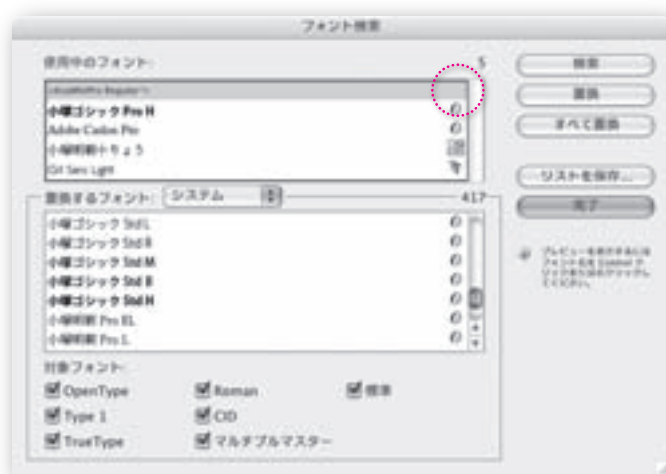
Adobe Illustrator CS2の場合



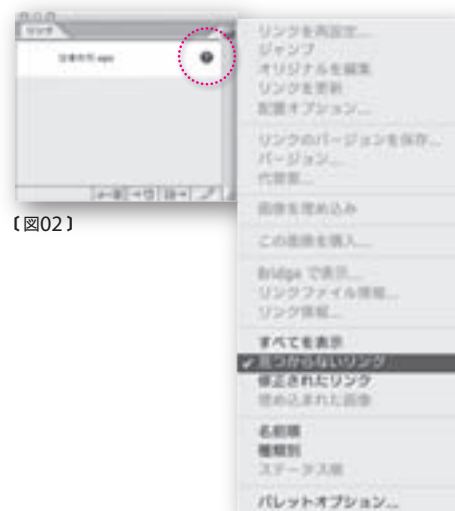
Adobe Illustrator CS2には、Adobe InDesign CS2にあるプリフライト機能はありませんが、使用フォントとリンク画像を手動で検査することができます。

使用フォント: 使用フォントの確認は、フォントの検索・置換ダイアログボックス〔図01〕で行います。環境に無いフォントがある場合は、検索コマンドで環境に無いフォントを置き換えます。詳しくは、Page4「フォントの管理」を参照ください。

リンク画像: リンクされた画像のステータスは、リンクパレットダイアログボックス〔図02〕で確認できます。見つからないリンク、修正されたリンクがある場合は、リンクを再設定、リンクの更新コマンドでリンクファイルのステータスを修正します。詳しくは、Page 10「画像の管理」を参照ください。



〔図01〕



〔図02〕

パッケージ

Adobe InDesign CS2の場合



パッケージを行いますと、ドキュメントを正確に出力するために必要であるリンクされたファイルやフォント、それと連絡先や指示を記入できる出力仕様書を加えたファイルが1つのフォルダに収集されます〔図03〕。パッケージを実行するには、[ファイル] [パッケージ]を選択します。なお、パッケージを選択すると、先に自動でプリフライトが行われます。もし警告が発生〔図04〕したら、[情報を表示]を選択し、問題を解決します。問題がある状態で[続行]を選択しますと、不完全なパッケージが生成される可能性があるからです。



〔図04〕



〔図03〕

Adobe InDesign CS2では、ドキュメント内に貼り込んだグラフィックデータ(例えば、Illustratorファイルなど)内にさらに外部へリンクしている画像データがある場合、ドキュメント内に貼り込まれたグラフィックデータは収集されますが、外部へリンクした画像データまでは収集されません。外部へリンクした画像データは、手動で同梱するようにします。これら外部へリンクした画像は、プリフライトの「リンクと画像」にもリストされませんので注意が必要です。

パッケージパネル

フォントのコピー (欧文フォントのみ): ドキュメント内に使用されている欧文フォントのみコピーします。フォントファミリーすべてはコピーされません。

リンクされたグラフィックのコピー: Adobe InDesign CS2上に配置されたファイルを対象に、リンクされたグラフィックのファイルをコピーします(配置されたファイル内にリンクしている画像はコピーされません)。テキストファイルをリンクしている場合は、常にコピーされます。

パッケージ内のグラフィックリンクの更新: コピーされたドキュメントとリンクファイルの関連づけを維持させるために、すべてのリンクをパッケージフォルダの場所に変更します。

ドキュメントハイフン例外のみ使用: InDesignドキュメントの制作環境にあるユーザ辞書が埋め込まれます。これは、他のユーザ辞書(制作環境以外のコンピュータ上にあるユーザ辞書など)が使用されないようにしたいときに便利です。これによって、制作環境以外で改行が変更されてしまうトラブルを回避できます。

非表示レイヤーのフォントとリンクを含める: 非表示レイヤーで使用しているすべてのフォントとリンクされたファイルを収集します。

レポートを表示: パッケージ終了後、印刷指示レポートが自動的に表示され、再編集することができます。

Adobe Illustrator CS2の場合



Adobe Illustrator CS2には、パッケージ機能がありません。

プレビュー

Adobe InDesign CS2

では、作成したデータがどのように分版出力されるかを事前に確認することができます。

PDFファイルに書き出した後は、Acrobat 7.0 Professional の出力プレビューでも InDesign 同様に分版の確認ができます。

分版プレビュー



Adobe InDesign CSの分版プレビューは、ドキュメントがどのように色分解されるか、すべてのプレート(プロセスカラープレートと特色プレート)を評価することができます。今までは、画面やコンポジット出力では判断できず色分解出力して確認していた内容を、色分解出力することなく画面上で確認ができ、また編集可能な状態でプレビューするため、問題がある場合でも素早く手軽に修正することができます。



CMYK版



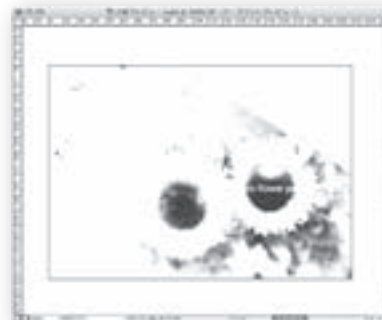
C版



M版



Y版



K版

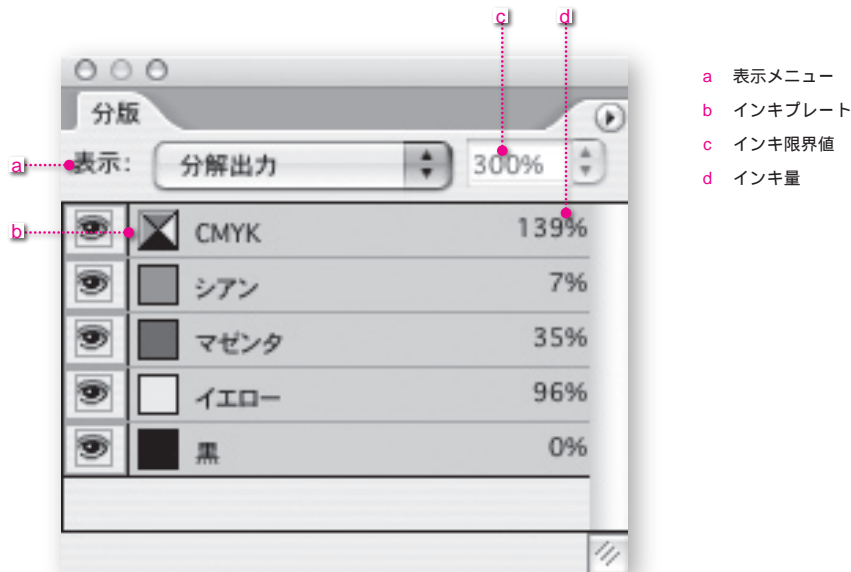
分割・統合のプレビュー

Adobe InDesign CS2やAdobe Illustrator CS2の透明機能を使用した場合は、出力する前に透明部分の「分割・統合のプレビュー」で、作成したデータがどのように分割・統合されるのかを確認することをお勧めします。👉 [透明の手引き](#)

分版プレビューは、分版パレット〔図03〕で調整します。分版パレットには、実際に使用されているかどうかに関係なく、ドキュメントで定義されているプロセスカラーおよび特色インキがリストされます。例えば、特色を2色しか使用していない場合でも、CMYKプレートは必ずリストされます。ただし、必要のないプレートは出力されません。不要な特色インキがある場合、スウォッチパレットから削除すると、分版パレットからも削除されます。分版パレットでは、分版プレビューの他に、オーバープリントのプレビューや任意のポイントの総インキ使用量(インキ限定)も確認することもできます。また、「黒の脱色」では、印刷した場合に黒色がどのように見えるかをより正確に視覚化することができます。分版パレットを表示するには、[ウィンドウ] [出力プレビュー] [分版]を選択します。

注意

分版プレビューでは、BuiltInトラップまたはAdobe In-RIPトラップのオーバープリント効果はプレビューできません。プリント属性パレットにより、または透明を適用することで手動で適用されたオーバープリントの効果のみ表示されます。



〔図03〕

表示メニュー

分解出力: 各々の色版を選択し、表示・非表示を切り替えることができます。オーバープリントおよび透明効果のブレンドが色分解出力でどのように分版されるかをプレビューすることができます。

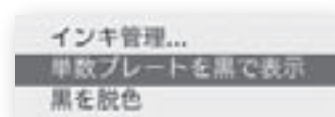
インキ限定: 指定したインキ限界値を超えている領域がハイライト表示されます。グレーの領域はインキ限定の範囲内を表します。ハイライトが密集した領域は、大幅にインキ限界値を超えていることとなります。貼り込まれたビットマップ画像やベクトルオブジェクトに対しても有効です。インキ限界値は、印刷会社へ問い合わせてください。

サブメニュー

インキ管理: インキ管理ダイアログを表示します。インキ管理は、特色を制御する場合に便利です。

黒を脱色: 画面上の100%不透明の黒インキを、実際の印刷で使用される不透明度が100%ではない黒インキとして表示します。黒インキが他のインキとどのように相互作用しているかを評価することができます。「黒を脱色」は、カラーマネジメントの機能の一部なので、カラーマネジメントがオンの場合、強制的にオフになります。

単数プレートを黒で表示: 色版プレートを単独で表示するとき、実際の色ではなく黒で表示します。黄版など単版では視認性の悪い色版に有効です。



データ書き出しについて

Adobe Creative Suiteでは幅広い出力のニーズに合うように、さまざまなファイル形式での保存および書き出しがサポートされています。

Adobe InDesign CS2について



[ファイル]メニューから [書き出し]を選択すると

[書き出し]ダイアログ〔図01〕が開きます。

データ書き出しの基本的なファイル形式として**PDF**と**EPS**の2つを取りあげます。

InDesign CS2



書き出し

Adobe Illustrator CS2について



Adobe InDesign CS2同様[ファイル]メニューから [保存]を選択すると

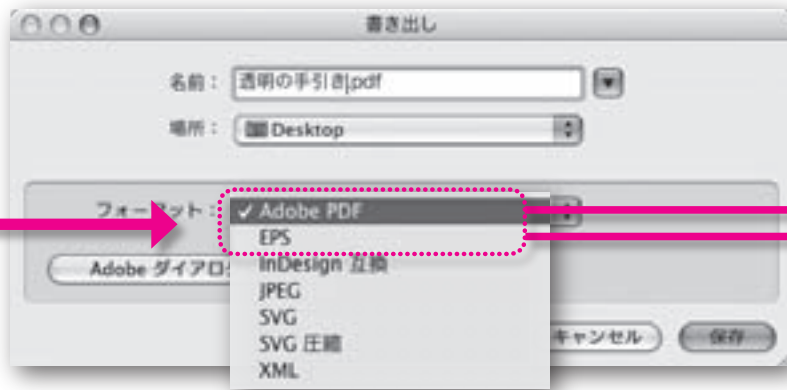
[保存]ダイアログ〔図02〕が開きます。

基本のファイル形式として**AI**、**PDF**、**EPS**の3つを取りあげます。

Illustrator CS2



保存



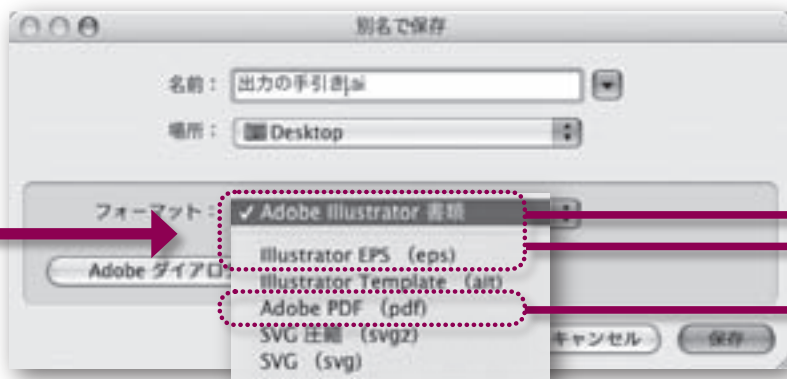
PDFファイル
➡P28 ~ 38



EPSファイル
➡P45 ~ 47

【図01】

Adobe InDesign CS2の「書き出し」ダイアログ



CS形式
➡P51



以前の形式*
➡P52



EPSファイル*
➡P48 ~ 50



PDFファイル
➡P39 ~ 44

【図02】

Adobe Illustrator CS2の「保存」ダイアログ

*注意

Illustrator CS2から、下位互換形式のネイティブおよびEPSファイルは、「保存」から作成できるようになりました。

Adobe Creative suite 2 の新しい PDF 機能



共有PDFプリセット

これまでAdobeアプリケーションは、独自のPDFプリセットを使用していました。これらのプリセットは、アプリケーション間で似通ってはいましたが、交換はできませんでした。Adobe Creative Suite 2では、共有PDFプリセットの追加により、PDFの統合が向上しました。Adobe Creative Suite 2のすべてのコンポーネントは、PDFプリセットの同じセットを使用できるので、Photoshop、Illustrator、InDesign、Acrobatを使用してPDFファイルを作成し、交換する際に一貫性が確実に維持されます。

PDFプリセットファイルでは、Acrobat Distillerソフトウェアベースのjob optionsファイル形式を使用します。これは、PDF設定および作成に適している形式です。joboptionsの設定は、すべてのAdobe Creative Suite 2コンポーネントで共有されます。PDFプリセットを一度作成すると、これをすべてのAdobe Creative Suite 2コンポーネントで使用できます。

PDF 文書を作成するときに選択するPDFプリセットは、ドキュメントの用途によって異なります。Adobe Creative Suite 2に付属のデフォルトでインストールされる5つのPDFプリセットについて、次に簡単に説明します。

デフォルトでインストールされる5つのPDFプリセットについて

1 Smallest File Size.joboptions

[最小ファイルサイズ]

このプリセットは、PDFドキュメントを電子的に配布する、インターネットに公開する、またはコンピュータのモニタに表示する場合に使用します。ファイルサイズを小さく維持することにより、アップロードおよびダウンロード時間が最小限に抑えられ、表示が迅速になりますが、高解像度の出力用には画像解像度が不十分です。すべてのカラーはsRGBに変換されます。

2 High Quality Print.joboptions

[高品質印刷]

このプリセットは、カラーインクジェットやレーザープリンタなど、デスクトップ出力デバイスのテストプリントを含むさまざまな用途でPDFドキュメントを作成する場合に最適です。このプリセットを使用した場合、カラーは変換されません。

3 Press Quality.joboptions

[プレス品質]

このプリセットは、PDFドキュメントを高解像度の色分解やデジタルプリントに出力する、またはプリプレスワークフローで使用する場合に使用します。このプリセットでは、ネイティブな(編集可能)透明部分が含まれるPDF 1.4ファイルが作成されます。このプリセットを使用した場合、カラーはCMYKまたはスポットカラーに変換されます。

注意

アドビ システムズ社では、前述の3つのPDFプリセットをPDFファイルの出力に最適なプリセットとして提供しています。これらのプリセットではPDF 1.4以降のファイルが作成されます。これは、すべての透明効果が保持されている(つまり、透明効果が分割・統合されていない)ことを示します。通常、透明部分の分割・統合は出力するデバイスに応じて解像度が異なります。ワークフローまたは出力デバイスで分割・統合された透明部分が必要な場合は、PDF/Xの使用を検討してください。PDF/XファイルはPDF 1.3であり、分割・統合された透明部分が必要です。 透明の手引き

4 PDFX1a 2001.joboptions

[PDF/X-1a:2001 (日本)]

ハイエンド出力用に設計されたこのプリセットでは、PDF/X-1a準拠のファイルが作成されます。つまり、ドキュメントをプリントするために必要なすべてのフォントが埋め込まれており、カラーがCMYKまたはスポットカラーで、ページ境界とトラップインテントが定義されています。

5 PDFX3 2002.joboptions

[PDF/X-3:2002 (日本)]

ハイエンド出力用に設計されたこのプリセットでは、PDF/X-3準拠のファイルが作成されます。PDF/X-1aと同様に、PDF/X-3はグラフィックコンテンツ交換における標準です。主な違いは、PDF/X-3が出力インテントを使用したカラーマネジメントをサポートしている点です。

カスタムPDFプリセットの作成

インストールされるデフォルトのPDFプリセットは最適な方法に基づくものですが、ワークフロー（例えば、印刷・出力会社のワークフロー）が、どの組み込みプリセットからも得られない特別なPDF書き出し設定を使用する場合があります。このような場合は、ユーザ自身または印刷・出力会社がカスタムプリセットを作成することで、すべてのAdobe Creative Suite 2コンポーネント間でそのプリセットを他のユーザと共有できます。

カスタムPDFプリセットを保存し、同僚やクライアントと共有できるので、一貫性のある信頼性の高いPDFを作成するための簡単で、しかし強力なオプションが得られます。印刷業者から提供されたカスタムPDFプリセットを使用すると、印刷業者の装置との互換性が保証されます。カスタムPDFプリセットを、Acrobat 7 ProfessionalのカスタムPDFプリフライトプロファイルの作成機能と組み合わせることにより、作成から出力まで、信頼性が高く一貫性のあるPDFワークフローを構築できます。

カスタムPDFプリセットが必要な場合は、いずれかの内蔵プリセットに基づいてさまざまなプリセットを簡単に作成できます。または最初から作成することもできます。また、同僚、顧客、印刷・出力会社がその用途を理解できるように、カスタムプリセットと併せて説明を含めることもできます。



InDesign CS2



Illustrator CS2



Photoshop CS2



GoLive CS2



Acrobat Distiller Pro 7

共有PDFプリセットフォルダ



1 最小ファイルサイズ



2 高品質印刷



3 プレス品質



4 PDF/X-1a:2001 (日本)



5 PDF/X-3:2002 (日本)

標準プリセット

カスタムプリセット



ユーザーによる
カスタムプリセット
の追加・削除が可能

共有PDFプリセットフォルダの場所

ここに保存されたプリセット設定は、すべてのユーザーで使用することができます。

Mac OS Xの場合 [起動ディスク]/Library/Application Support/Adobe PDF/Settings

Windowsの場合 [起動ディスク]¥Documents and Settings¥All Users¥Documents¥Adobe PDF¥Settings



Adobe PDFファイルの書き出し

Adobe PDFのオプションは幾つかの項目に分類されています。オプションを変更するとプリセット名に「(変更済み)」(InDesign)、「(変更)」(Illustrator)が追加されます。項目は「Adobe PDFを書き出し」(InDesign)、「Adobe PDFを保存」(Illustrator)の各ダイアログボックスの左側にあるリストに表示されますが、「標準」(InDesign)「準拠する規格」(Illustrator)オプションと「互換性」(InDesign)「互換性のある形式」(Illustrator)オプションはダイアログボックスの上部に表示されます。

ダイアログボックス上部

ダイアログボックス左側の項目リスト

Adobe Creative SuiteはPDFファイルを書き出す際、Acrobat Distillerではなく、内部のPDFライブラリ(PDF 1.3~1.6をサポート)とAdobe Graphics Managerを使用しています。



Adobe InDesign CS2の「Adobe PDFを書き出し」ダイアログ

InDesign CS2

Illustrator CS2

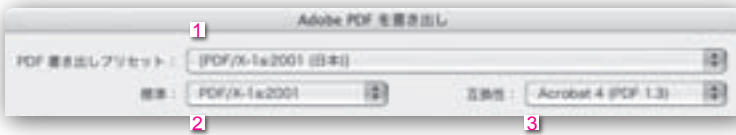
ダイアログボックス上部		解説	
標準(準拠する規格)	⇒ P29	ファイルのPDF/Xフォーマットを指定します。	
互換性(互換性のある形式)	⇒ P29	ファイルのPDFバージョンを指定します。	
ダイアログボックス左側の項目リスト		解説	
一般	⇒ P29	⇒ P39	基本的なファイルオプションを指定します。
圧縮		⇒ P31	アートワークの圧縮およびダウンサンプリングを行うかどうか、行う場合はその方法と設定を指定します。
トンボと裁ち落とし	⇒ P32	⇒ P41	トンボと裁ち落とし、ページ情報などを指定します。
色分解	⇒ P32	⇒ P42	カラーおよびPDF/X出力インテントプロファイルをPDFファイルに保存する方法を指定します。
詳細(詳細設定)		⇒ P35	フォント、透明の分割・統合をPDFファイルに保存する方法を指定します。
セキュリティ		⇒ P36	PDFファイルのセキュリティを設定します。
概要(内容設定)		⇒ P38	現在のPDF設定の概要を表示します。設定内容をテキストファイルとして保存できます。選択したプリセットの設定が適切ではなく、変更が必要な場合は警告アイコンが表示され、説明が表示されます。

Adobe InDesign CS2の場合



共通領域

Adobe InDesign CS2のPDF書き出しダイアログボックスで、どのパネルを表示しても共通して表示されます。



PDF書き出しプリセット: PDF書き出しプリセットは、ワークグループ内で一貫性のある Adobe PDFを作成するのに使用する定義済みの設定セットです。この設定は、PDFファイルの用途によって、ファイルサイズと品質のバランスがとられるように設計されています。カスタムプリセットを作成することもできます。(詳しくは「Adobe Creative Suite 2の新しいPDF機能」Page26を参照してください)

標準: ファイルのPDF/Xフォーマットを指定します。PDF/Xは、印刷上の問題を引き起こす原因となるカラー、フォントおよびトラップ値の多くを除去するためのグラフィックコンテンツ交換用のISO標準規格です。InDesign CS2では、PDF/X-1a:2001、PDF/X-1a:2003 (CMYKワークフロー用)とPDF/X-3:2002、PDF/X-3:2003 (カラー管理されたワークフロー用)をサポートしています。

互換性: PDFファイルを作成する際、使用するPDFバージョンを決める必要があります。PDFファイルを印刷・出力会社へ送る場合は、Acrobat 4 (PDF 1.3)を選択するか、印刷・出力会社に問い合わせます。



一般パネル

一般パネルには、プリントダイアログボックスのオプションに似た、基本的なプリントオプションが表示されます。どのPDF属性を書き出すかも指定できます。



各パネルのセクションでカスタマイズしたオプションを、初期設定に戻すにはOptionキー (Mac OS) またはAltキー (Windows) を押しながら「リセット」をクリックします。

注意

商用印刷の場合は「見開き印刷」を選択しないで下さい。印刷・出力会社が面付けできなくなります。

「ページ」セクション

「ページ」セクションは、プリントダイアログボックスの「ページ」セクションとほとんど同じで、「順番」および「マスターページをプリント」オプションがない点のみが異なります。

「オプション」セクション

ページサムネールを埋め込み：書き出されるページごとにサムネール画像を作成します。ただし、一般パネルで「見開き印刷」オプションが選択されている場合には、見開きごとに1つのサムネールが作成されます。Acrobat 5以降ではページサムネールが自動的に生成されるので、このオプションはAcrobat 4の場合に最も便利です。Acrobat 4では、このオプションを選択解除することで、ファイルサイズを小さくすることができます。

Web表示用に最適化：Adobe PDFファイルを最適化してファイルサイズを減らします。InDesignはファイルを再構築して、Webサーバから一度に1ページずつダウンロード(Byte Serving)できるようにします。このオプションを使用すると、「圧縮」設定での選択に関係なく、テキストおよびラインアートが圧縮されます。これによって、Webやネットワークからファイルをダウンロードするときの、アクセス速度や表示速度が高まります。

書き出した後PDFを表示：Adobe PDFファイルをAcrobatで開きます。最良の結果を得るためには、Acrobat 5以降を使用してください。透明は、Acrobat 5以降で表示できます。「オーバープリントプレビュー」コマンドを使用すれば、オーバープリントがどのように表示されるかが画面上で確認できます。

Acrobatレイヤーを作成：InDesignレイヤーをPDFレイヤーに変換します。このオプションは、互換性ポップアップメニューからAcrobat 6 (PDF 1.5)、Acrobat 7 (PDF 1.6)を選択した場合にのみ使用できます。このオプションを選択した場合、印刷マークは印刷マークという新しいレイヤーに配置されます。PDFレイヤーは、単にオブジェクトを編成する目的で使用するものではなく、複数のコンテンツの表示を制御する目的で使用するものであることに注意してください。PDFレイヤー機能を活用したコンテンツをInDesignで作成する場合を除き、このオプションを選択する必要はありません。

「読み込み」セクション

ブックマーク：InDesignの目次項目に対応するブックマークを作成します。目次(TOC)レベルは保持されます。また、InDesignドキュメント内のハイパーリンクに対応するAdobe PDFブックマークも作成され、AcrobatやAdobe Readerでナビゲートすることができます。

ハイパーリンク：InDesignハイパーリンク、目次項目、および索引項目に対応するAdobe PDFハイパーリンクを作成します。ハイパーリンクは、AcrobatやAdobe Readerで完全にサポートされています。

印刷しないオブジェクト：属性パレットで「印刷しない」をオンにしたオブジェクトを含む、すべてのオブジェクトを書き出します。

eBookタグ：InDesignがサポートしているAcrobat 5以降のタグのサブセットに基づいて、ストーリー内の要素に自動的にタグを付けたAdobe PDFファイルを生成します。

インタラクティブ：ムービー、サウンドおよび使用可能なすべてのボタンの状態を書き出します。プリプレスプロジェクトには直接関係しませんが、このオプションを使用すると、InDesign CS2のマルチメディアオーサリングサポートによって、Acrobatの関連する機能に直接変換することができます。

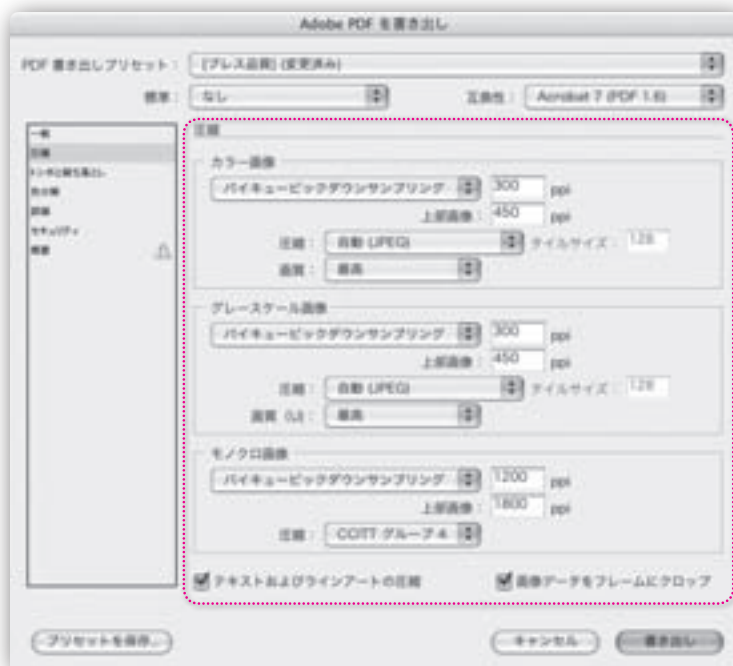
マルチメディア：ムービーやサウンドをPDFにリンクするか埋め込むかを指定します。これは、「インタラクティブ」が選択されている場合にのみ使用可能で、ボタンには影響

しません。「すべてをリンク」を選択すると、PDFと同じフォルダに、リンクされたムービーおよびサウンドが格納されます。「オブジェクトの設定を使用」を選択すると、リンクされるか埋め込まれるかは、個々のオブジェクトに適用されている設定によって決定されます。「すべてを埋め込み」を選択すると、オブジェクトの設定に関係なく、メディアが埋め込まれます。

圧縮パネル

圧縮パネルには、Adobe PDFファイルのサイズを減らすためのオプションが用意されています。印刷・出力会社とのワークフローで最良な結果を得るためには、ファイルの出力品質が低下しないように、圧縮の使用を制限する必要があります。このパネルは、ユーザーがすぐに使いこなせるよう、Acrobat Distillerの圧縮パネルとよく似た構成になっています。

印刷・出力会社とのワークフローでは出力品質が優先されます。圧縮を適用する場合、サブサンプリングよりもダウンサンプリングの方が望ましく、損失がある圧縮よりも損失がない圧縮のほうが高品質の出力が得られます。「プレス」PDFプリセットには、印刷・出力会社とのワークフローに適した圧縮設定がすでに設定されています。多くの場合、この「プレス」PDFプリセットを選択するだけで、簡単に圧縮を設定できます。



カラー画像：カラー画像を圧縮するには、「ダウンサンプリング」を選択して、dpi値を指定します。ただし、画像がダウンサンプリングされるのは、指定した値の1.5倍を超える解像度を画像が持っている場合のみです。「圧縮」は「自動」に、「品質」は「最高」に設定することをお勧めします。JPEG2000圧縮は、すべてのRIPおよびプリプレスアプリケーションでサポートされているわけではありません。

グレースケール画像：グレースケール画像を圧縮するには、「ダウンサンプリング」を選択して、dpi値を指定します。ただし、画像がダウンサンプリングされるのは、指定した値の1.5倍を超える解像度を画像が持っている場合のみです。「圧縮」は「自動」に、「品質」は「最高」に設定することをお勧めします。JPEG2000圧縮は、すべてのRIPおよびプリプレスアプリケーションでサポートされているわけではありません。

モノクロ画像：1ビット画像を圧縮するには、「ダウンサンプリング」を選択して、最

終出力デバイスの解像度を入力します。次に、最も損失が少ない圧縮を行うには、「CCITTグループ4」を選択します。InDesignでは、「CCITTグループ3」および「CCITTグループ4」圧縮オプションがサポートされています。「CCITTグループ3」は、ほとんどのFAX機で使用されているもので、モノクロのビットマップを一度に1行ずつ圧縮します。「RLE」オプションは、損失のない圧縮オプションです。これは、白または黒の大きなベタ領域がある画像の場合に、最良の結果が得られます。

テキストおよびラインアートの圧縮：これはデフォルトで選択されています。選択したままにしておくことをお勧めします。損失のない圧縮が使用されるので、PDFファイルでのこれらの要素の品質には影響はありません。

画像データをフレームにクロップ：このオプションは、フレームの表示可能な部分にある画像データのみを書き出すことで、ファイルサイズを小さくします。ポストプロセッサが(画像を再配置したり裁ち落とししたりするなどの目的で)追加情報を使用する可能性がある場合は、このオプションを選択しないでください。

トンボと裁ち落としパネル

このパネルでは、内トンボや裁ち落とし領域などの、ページ枠を越えて必要な印刷領域を拡大するアイテムを指定します。PDF書き出しのトンボと裁ち落としパネルは、プリントダイアログボックスのトンボと裁ち落としパネルと同じです。

トンボ、裁ち落とし領域、および印刷可能領域を含めてPDFに書き出す場合は、これらを格納するのに十分な大きさのページサイズを指定してください。

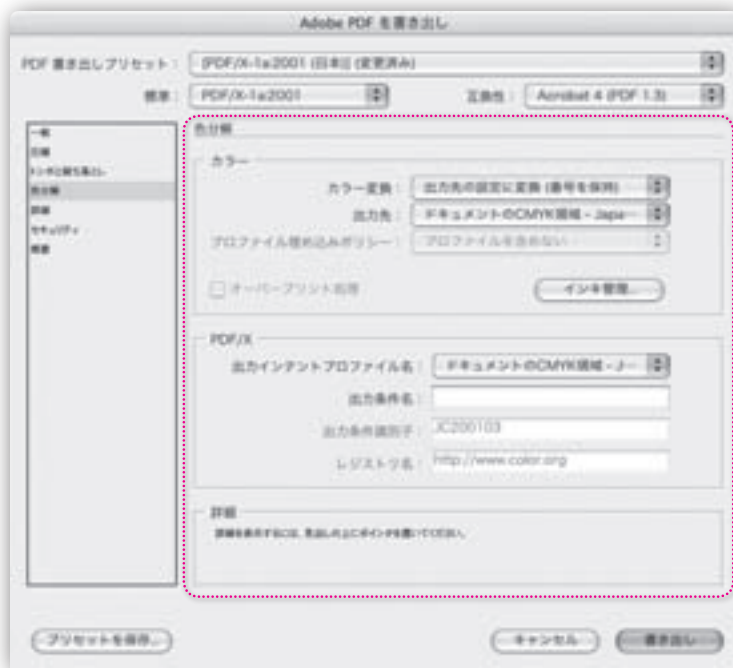


色分解パネル

「色分解」パネルでは、次のオプションを設定できます。「色分解」の各オプションの相互作用は、カラーマネジメントがオンかオフか、ドキュメントにカラープロファイルのタグが付いているかどうか、どのPDF標準が選択されているかによって異なります。

「カラー」セクション

カラー変換：Adobe PDFファイルのカラー情報を表示する方法を指定します。すべての



特色情報は、カラー変換を行っても保持されます。プロセスカラーだけが、指定されたカラースペースに変換されます。

カラー変換なし: カラーデータが現状のまま維持されます。PDF/X-3 を選択している場合のデフォルトになります。

出力先の設定に変換: すべてのカラーが、出力先で選択されているプロファイルに変換されます。プロファイルを含めるかどうかは、「プロファイル埋め込みポリシー」で指定します。

出力先の設定に変換(番号を保持): 出力先プロファイルとは異なるプロファイルが埋め込まれている場合(またはRGBカラーであるときに出力先プロファイルがCMYKである場合、またはこの反対の場合)、出力先のプロファイルスペースにカラーが変換されます。タグなしカラーオブジェクト(プロファイルが埋め込まれていないもの)とネイティブオブジェクト(ラインアートやタイプなど)は変換されません。カラーマネジメントがオフの場合は、このオプションは使用できません。プロファイルを含めるかどうかは、「プロファイル埋め込みポリシー」で指定します。

出力先: 使用しているモニターやSWOP標準などの最終的なRGBまたはCMYKの出力デバイス全般が記述されています。InDesignでは、このプロファイルを使用して、[ドキュメント] [カラー情報] (カラー設定ダイアログボックスの「作業用スペース」セクションで定義されたソースプロファイル)を、対象の出力デバイスのカラースペースに変換します。

プロファイル埋め込みポリシー: カラープロファイルをファイルに含めるかどうかを指定します。「カラー変換」の設定、どのPDF/X標準が選択されているか、カラーマネジメントがオンかオフかによって、このオプションで選択できる設定は異なります。

プロファイルを含めない: カラー管理されたドキュメントを作成するときに、埋め込みカラープロファイルを使用しません。

すべてのプロファイルを含める: カラー管理されたドキュメントを作成します。Adobe PDFファイルを使用するアプリケーションまたは出力デバイスで、カラーを別のカラースペースに変換する必要がある場合、プロファイルに埋め込まれているカラースペースを使用します。このオプションを選択する前に、カラーマネジメントをオンにし、プロファイル情報を設定しておきます。

注意

オーバープリント処理は、クライアントレビューや校正に使用する目的で用意されている機能です。最終のハイエンドプリントや分版の生成に使用するPDFでは、オーバープリント処理は有効にしないでください。オーバープリント処理がオンになっている場合、特色は保持されません。

タグ付きソースプロファイルを含める: デバイスに依存する色は変更せず、デバイスに依存しない色は最も近い色を保持します。このオプションは、デバイスをすべて補正して、ファイルに含まれる色を指定するためにその情報を使用して、それらのデバイスにしか出力しない印刷・出力会社などに適しています。

すべてのRGBおよびタグ付きソースCMYKプロファイルを含める: 埋め込みプロファイルを使用して配置されたオブジェクトなど、タグ付きRGBオブジェクトとタグ付きCMYKオブジェクトのプロファイルを含めます。タグなしRGBオブジェクトのドキュメントのRGBプロファイルも含まれます。

出力先のプロファイルを含める: 出力先のプロファイルをすべてのオブジェクトに割り当てます。「出力先の設定に変換(番号を保持)」を選択している場合、同じカラースペースにあるタグなしオブジェクトに出力先プロファイルが割り当てられ、カラー番号は変更されません。

オーバープリント処理: コンポジット出力のオーバープリントの外観を維持することで、色分解出力の外観をシミュレートします。「オーバープリント処理」を選択していない場合は、Acrobatで「オーバープリントプレビュー」を選択して、重なるカラー効果を確認する必要があります。「オーバープリント処理」を選択している場合は、Acrobatで「オーバープリントプレビュー」を選択しなくても、特色が各プロセスカラーに変更され、重なるカラーが正常に出力されます。「オーバープリント処理」を選択している場合で、ダイアログボックスの「一般」パネルにある「互換性」で「Acrobat 4 (PDF 1.3)」を選択している場合、ドキュメントのカラーをモニタで直接、ソフト校正し、特定の出力デバイスで再現することができます。

インキ管理: 特色をプロセスカラーに変換するかどうかを指定し、他のインキ設定を指定します。「インキ管理」を使用しているドキュメントを変更すると(例えば、すべての特色をプロセスカラーに変換すると)書き出されたファイルと保存されたファイルに変更内容が反映されますが、設定はAdobe PDFプリセットには保存されません。

「PDF/X」セクション

出力インテントプロファイル名: ドキュメントのプリント条件の特性を指定します。出力インテントプロファイルは、PDF/Xに準拠したファイルを作成するときに必要です。このメニューは、Adobe PDFを書き出しダイアログボックスの「一般」パネルにある「標準」で、PDF/X(またはプリセット)を選択している場合にだけ使用できます。カラーマネジメントがオンかオフかによって、このオプションで選択できる設定は異なります。例えば、カラーマネジメントがオフである場合、出力先のカラースペースに一致する出力プロファイルだけが表示されます。カラーマネジメントがオンである場合は、出力インテントプロファイルは、(CMYK出力デバイスの)「出力先」で選択されているプロファイルと同じプロファイルになります。

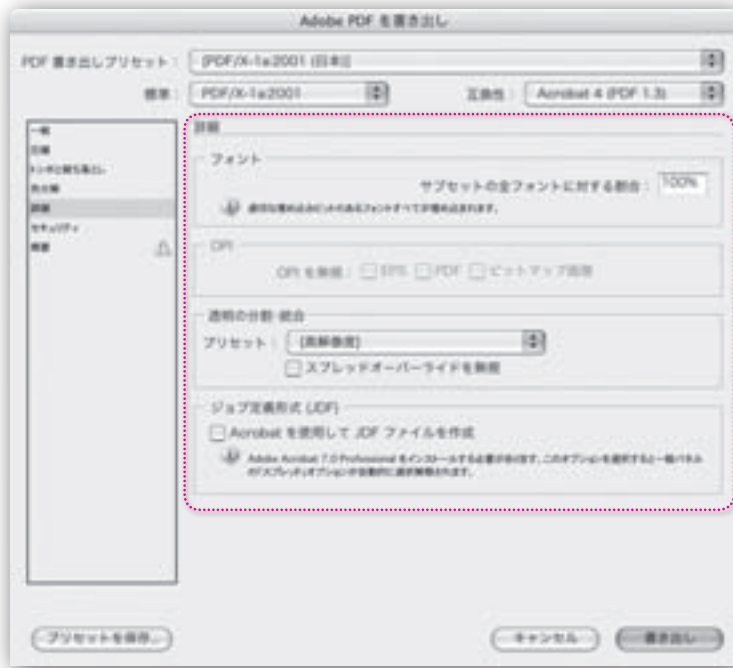
出力条件名: 対象の印刷条件を記述します。このエントリは、PDF文書の受信者に便利です。

出力条件識別子: インテントプリント条件の詳細情報へのポイントを示します。ICCレジストリに含まれるプリント条件の識別子が自動入力されます。PDF/X-3プリセットまたは標準を使用している場合、Acrobat 7.0のプリフライト機能にはファイルが準拠していないので、このオプションは使用できません。

レジストリ名: レジストリの詳細情報が掲載されているWebアドレスを示します。ICCレジストリ名のURLが自動入力されます。PDF/X-3プリセットまたは標準を使用している場合、Acrobat 7.0のプリフライト機能にはファイルが準拠していないので、このオプションは使用できません。

詳細パネル

詳細パネルには、フォントのサブセットの埋め込み、OPI置換用のグラフィックの無視、透明の分割・統合プリセットの選択などのオプションが表示されます。



「フォント」セクション

サブセットの全フォントに対する割合: ドキュメント内で使用されているフォントの文字数に基づいて、完全なフォントを埋め込むしきい値を設定します。ドキュメント内で使用されている文字の割合がどのような条件のフォントに対しても上回っている場合、そのフォントは完全に埋め込まれます。そうでない場合、フォントはサブセットになります。フォントが完全に埋め込まれるとファイルサイズは大きくなります。完全にすべてのフォントを埋め込む場合は0（ゼロ）を入力します。

「OPI」セクション

プリンタやファイルに画像データを送る際、選択した形式と異なる画像を無視し、後でOPIサーバで画像を制御するためのOPIリンク(OPIコメント)だけが保持されます。

「透明の分割・統合」セクション

プリセット: ダイアログボックスの「一般」パネルにある「互換性」で「Acrobat 4 (PDF 1.3)」を設定すると、透明の分割・統合のプリセット(またはオプション)を指定することができます。これらのオプションは、アートワーク内の透明効果と一緒にスプレッドを書き出す場合にだけ使用します。

スプレッドオーバーライドを無視: ドキュメントまたはブックにあるすべてのスプレッドに透明の分割/統合設定を適用し、個々のスプレッドにある透明の分割/統合プリセットを上書きします。

「ジョブ定義形式(JDF)」セクション

Acrobatを使用してJDFファイルを作成: ジョブ定義形式(JDF)ファイルを作成し、Acrobat 7.0 Professionalを起動してJDFファイルを処理します。Acrobatのジョブ定義には、プリントするファイルへの参照と、印刷・出力会社で製作するための指示や情報

注意

「Acrobat 5 (PDF 1.4)」以降では、アートワーク内の透明部分が自動的に保持されます。そのため、これらの互換性レベルが指定されている場合は「プリセット」および「カスタム」オプションは使用できません。

が含まれています。このオプションは、Acrobat 7.0 Professionalがインストールされている場合にだけ使用できます。

セキュリティパネル

Adobe PDFを書き出しダイアログボックスの「セキュリティ」パネルでは、次のオプションを設定できます。設定できるオプションは、「互換性」の設定により異なります。「セキュリティ」のオプションは、PDF/X標準またはプリセットでは設定できません。「Acrobat 4 (PDF 1.3)」オプションでは最低レベル(40-ビットRC4)が使用され、その他のオプションでは最高レベル(128-ビットRC4)が使用されます。「Acrobat 6 (PDF 1.5)」以降では、メタデータを検索できます。下位バージョンのAcrobatでは、互換性で上位バージョンが設定されているPDFドキュメントは開けません。例えば、ドキュメントのセキュリティ設定で、互換性に「Acrobat 7 (PDF 1.6)」を選択した場合、このドキュメントをAcrobat 7.0以前のバージョンで開くことはできません。

PDFセキュリティは、プリプレスワークフローの遅れの原因になることがあります(ファイル処理する後工程のスタッフがパスワードを知らなかった場合)。したがって、PDF/X仕様では、セキュリティ設定は使用できないようになっています。



注意:

パスワードを忘れた場合は、文書からパスワードを取得する方法はありません。パスワードを忘れたときのために、パスワードを別の安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

文書の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要PDFファイルのセキュリティ設定へのアクセスを制限します。ファイルをAdobe Acrobatで開く場合、ユーザはファイルを開覧できますが、ファイルのセキュリティと権限の設定を変更するには、特定の権限パスワードを入力する必要があります。ファイルをIllustrator、PhotoshopまたはInDesignで開く場合、ファイルを読み取り専用モードで開くことはできないので、権限パスワードを入力する必要があります。

「パスワード」セクション

文章を開くときにパスワードが必要: PDFファイルを開く際にパスワードの入力が必要になります。

文章を開くパスワード: PDFファイルを保護するパスワードを設定します。このオプションは、「文章を開くときにパスワードが必要」を選択した場合にだけ設定できます。

「権限」セクション

権限パスワード: PDFファイルを保護するパスワードを設定します。このオプションは、「文章を開くときにパスワードが必要」を選択した場合にだけ設定できます。

印刷を許可: PDFドキュメント上で、ユーザに許可する印刷レベルを指定します。

なし: ドキュメントを印刷できないようにします。

低解像度(150dpi): 150dpi以下の解像度で印刷を許可します。各ページはピク

トマップ画像としてプリントされるので、プリント速度は遅いことがあります。このオプションは、「互換性」で「Acrobat 5 (PDF 1.4)」以降を選択している場合にだけ使用できます。

高解像度: ユーザが任意の解像度で印刷できるようにします。高度な高品質プリント機能をサポートするPostScriptプリンタおよびその他のプリンタに、高品質のベクトル出力を送ることができます。

変更を許可: PDF ドキュメント上で許可する編集操作を定義します。

なし: 署名フィールドやフォームフィールドへの入力など、ドキュメントをいっさい変更できないようにします。

ページの挿入、削除と回転: ページの挿入、削除、回転、ブックマークとサムネールの作成を許可します。このオプションは、暗号レベルが最高(128-ビットRC4)に設定されている場合にだけ使用できます。

フォームフィールド記入と署名: フォームの入力と電子署名の追加を許可します。このオプションでは、コメントの追加とフォームフィールドの作成はできません。このオプションは、暗号レベルが最高(128-ビットRC4)に設定されている場合にだけ使用できます。

コメント、フォームフィールド記入と署名: コメント、フォームの入力と電子署名の追加を許可します。このオプションでは、ページオブジェクトの移動とフォームフィールドの作成はできません。

ページレイアウト、フォームフィールドの入力と署名: ページの挿入、回転、削除、ブックマークとサムネールの作成、フォームの入力、電子署名の追加を許可します。このオプションでは、フォームフィールドの作成はできません。このオプションは、暗号レベルが最低(40-ビットRC4)に設定されている場合にだけ使用できます。

ページの抽出を除くすべての操作: ドキュメントの編集、フォームフィールドの作成と入力、コメントの追加、電子署名の追加を許可します。

テキスト、画像および他の内容のコピーを有効にする: PDF ドキュメントの内容のコピーと抽出を許可します。

視覚障害者用スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする: 視覚障害者用スクリーンリーダーを使用したドキュメント内容の読み取りを許可します。このオプションは、暗号レベルが最高(128-ビットRC4)に設定されている場合にだけ使用できます。

ブレンテキストメタデータを有効: PDFの内容のコピーと抽出を許可します。このオプションは、「一般」パネルの「互換性」で「Acrobat 5 (PDF 1.4)」を選択している場合にだけ使用できます。このオプションを選択すると、ストレージ/検索システムおよび検索エンジンで、このドキュメントに格納されているメタデータへのアクセスが許可されます。このオプションは、「互換性」で「Acrobat 6 (PDF 1.5)」以降を選択している場合にだけ使用できます。

内容のコピー、および視覚障害者用アクセスを有効にする: 視覚障害者用スクリーンリーダーを使用したドキュメント内容の読み取りを許可し、PDFの内容のコピーと抽出を許可します。このオプションは、暗号レベルが最低(40-ビットRC4)に設定されている場合にだけ使用できます。

概要パネル

概要パネルには、現在の書き出し設定をまとめたレポートが表示されます。この概要は、保存することができます。保存した概要は、トラブルシューティングを行うときや、同僚や顧客に作業設定を伝えるときに役立ちます。

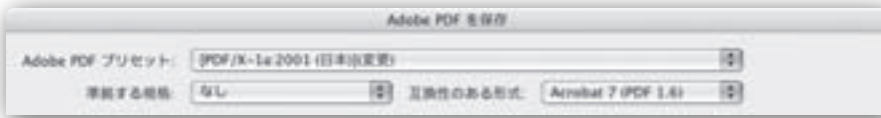


概要を保存: 概要をテキストファイルとして保存します。保存した概要は、他の人に送ったり、印刷したりアーカイブしたりすることができます。

Adobe Illustrator CS2の場合



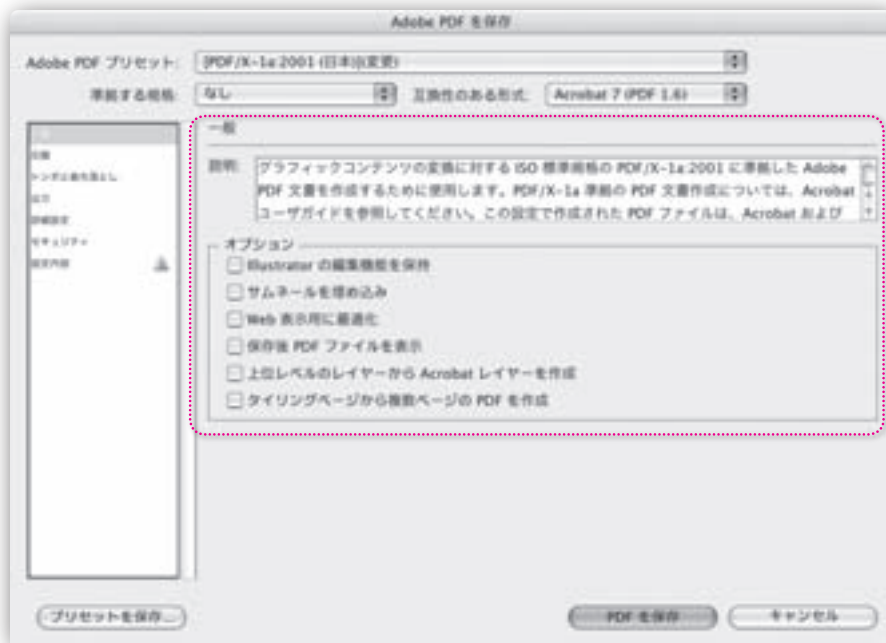
共通領域



InDesign CS2 「共通領域」(Page 29を参照)と同様

一般パネル

一般パネルには、プリントダイアログボックスのオプションに似た、基本的なプリントオプションが表示されます。どのPDF属性を書き出すかも指定できます。



「オプション」セクション

Illustrator の編集機能を保持: すべてのIllustratorデータをPDFファイルに保存します。

Adobe IllustratorでPDFを再度開いて編集する場合に選択します。

サムネールを埋め込み: アートワークのサムネール画像を作成します。サムネールはIllustratorの開くダイアログボックスまたは配置ダイアログボックスに表示されます。

Web 表示用に最適化: Adobe PDFファイルをWebブラウザで高速表示できるように最適化します。

保存後PDFファイルを表示: 新しく作成したPDFファイルを初期設定のPDF表示アプリケーションで開きます。

上位レベルのレイヤーから Acrobat レイヤーを作成: Illustratorの上位のレイヤーをAcrobatレイヤーとしてPDFファイルに保存します。レイヤー付きで保存すると、Adobe Acrobat 6および7のユーザは1つのファイルから複数のバージョンのドキュメントを生成できます。このオプションは、「互換性のある形式」が「Acrobat 6 (PDF 1.5)」または「Acrobat 7 (PDF 1.6)」に設定されている場合にだけ使用できます。



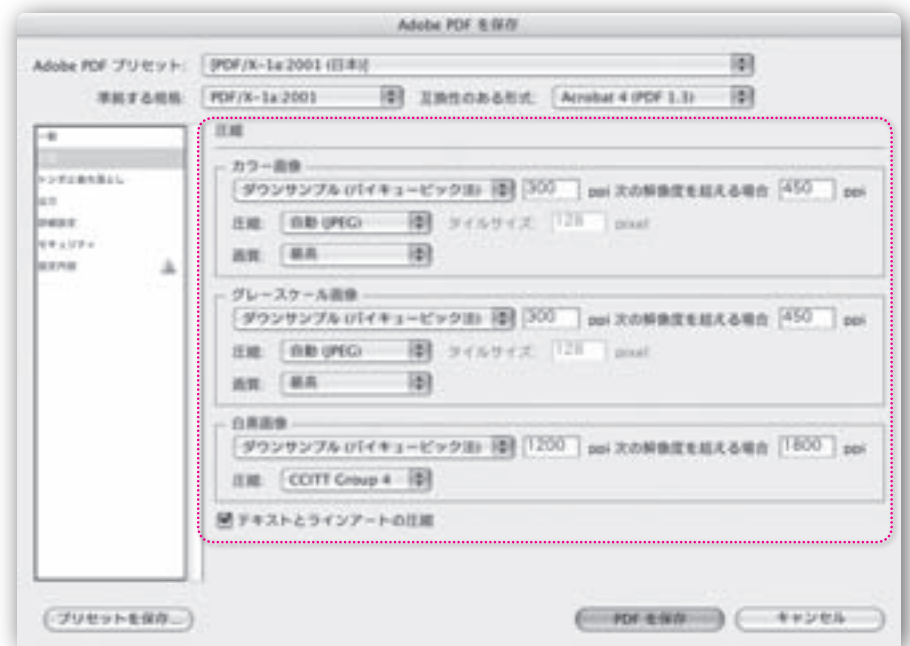
各パネルのセクションでカスタマイズしたオプションを、初期設定に戻すにはOptionキー(Mac OS)またはAltキー(Windows)を押しながら「リセット」をクリックします。

重要

「Illustrator の編集機能を保持」オプションを指定すると、大幅な圧縮とダウンサンプルを行う場合に影響が生じます。ファイルサイズを考慮する必要がある場合は、このオプションの選択を解除してください。

タイリングページから複数ページのPDFを作成: Illustratorドキュメントの各タイルを別々ページとしてPDFファイルに保存します

圧縮パネル

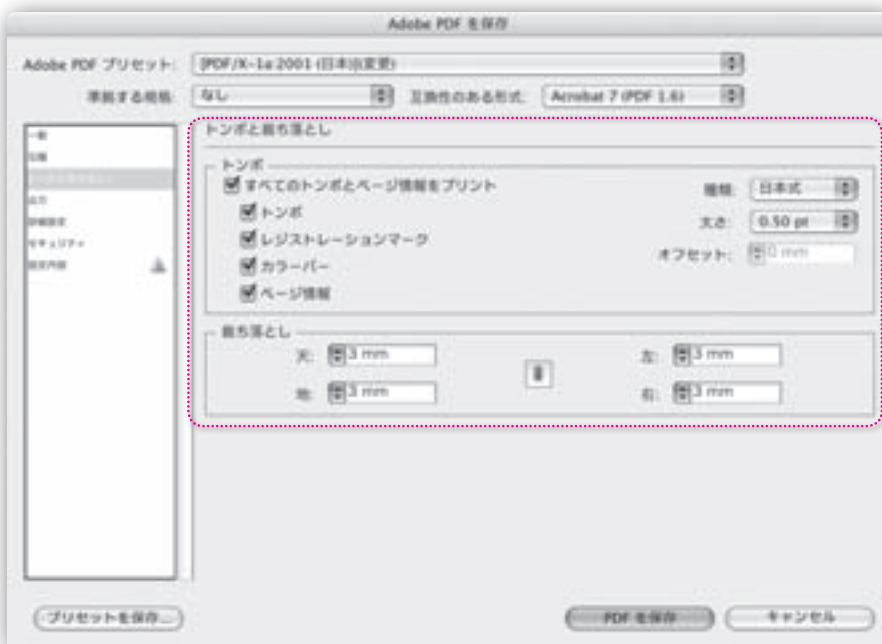


InDesign CS2 「圧縮パネル」(Page 31を参照)と同様

トンボと裁ち落としパネル

Adobe PDFオプションダイアログボックスの「トンボと裁ち落とし」パネルでは、裁ち落とし範囲の指定と、ファイルへの各種トンボの追加を行います。

裁ち落としとは、アートワークのプリント用バウンディングボックスの外側や、トンボやトリムマークの外側にプリントするアートワークの部分のことを指します。断裁後のページの端まで完全にインキを付けたい場合や、書類のキーラインに画像を収めたい場合は、アートワークに裁ち落としを設定しておくことで、プリント処理で生じる余白の誤差を調整することができます。



「トンボ」セクション

すべてのトンボとページ情報をプリント: すべてのトンボ(トリムマーク、レジストレーションマーク、カラーバーおよびページ情報)をPDFファイルに指定します。

種類: プリントするページに対して、「西洋式」または「日本式」のトンボの種類を選択します。

トンボ: トリミング領域の四隅にマークを付けPDFの仕上がり領域の境界を示します。

太さ: トンボの線の太さを指定します。

レジストレーションマーク: トンボの外側に色版の位置あわせ用のマークをつけます。

オフセット: アートボードからのすべてのトンボの距離を指定します。トンボはオフセットで指定された領域の端に配置されます。

カラーバー: 小さい四角形でカラーを追加し、それぞれの特色およびプロセスカラーを示します。プロセスカラーに変換される特色は、プロセスカラーで表されます。サービスビュー口ではこれらのマークを使用してプリンタのインキ濃度を調整します。

ページ情報: ページのトンボの外側にページ情報を配置します。ページ情報にはファイル名、ページ番号、現在の日時および色版の名前が含まれます。

「裁ち落とし」セクション

天地左右: アートワークの裁ち落としを調整します。リンクボタンが選択されている場合、これらの4つの値は固定の比率で設定されます。つまり、1つを変更すると残りの3つも更新されます。

出力パネル

「出力」パネルでは、次のオプションを設定できます。「出力」の各オプションの相互作用は、カラーマネジメントがオンかオフか、ドキュメントにカラープロファイルのタグが付いているかどうか、どの PDF 標準が選択されているかによって異なります。



「カラー」セクション

カラー変換: Adobe PDFファイルのカラー情報を表示する方法を設定します。カラーの設定されたオブジェクトをRGBまたはCMYKに変換する場合、ポップアップメニューから出力先のプロファイルを選択してください。すべての特色情報はカラー変換を行っても保持されます。プロセスカラーだけが指定されたカラー空間に変換されます。

変換しない: カラーデータをそのまま保持します。これは PDF/X-3選択時の初期設定です。

出力先の設定に変換: 出力先用に選択したプロファイルにすべてのカラーを変換します。プロファイルを出力ファイルに含めるかどうかは、「プロファイルの埋め込み」の設定によって決まります。

出力先の設定に変換(カラー値を保持): タグ付けされていないコンテンツのカラー値を、出力先プロファイルと同じカラー空間に保持します(出力先プロファイルに変換するのではなく、出力先プロファイルを割り当てます)。その他のコンテンツはすべて、出力先のカラー空間に変換されます。このオプションは、カラーマネジメントがオフになっている場合は使用できません。プロファイルを出力ファイルに含めるかどうかは、「プロファイルの埋め込み」の設定によって決まります。

出力先: 使用しているモニタやSWOP標準などの最終的なRGBまたはCMYKの出力デバイスが記述されているプロファイルを指定します。このプロファイルを使用して、Illustratorはドキュメントのカラー情報を対象の出力デバイスのカラー空間に変換します。

プロファイルの埋め込み: カラープロファイルをファイルに含めるかどうかを指定します。

「PDF/X」セクション

出力インテントのプロファイル: ドキュメントのプリント条件の特性を指定します。出力

注意

「出力先の設定に変換」を選択していて、出力先がドキュメントプロファイルに一致しない場合は、オプションの横に警告アイコンが表示されます。

Intentのプロファイルは、PDF/Xに準拠したファイルを作成するために必要です。このメニューは、Adobe PDFを保存ダイアログボックスでPDF/X（またはプリセット）が選択されている場合のみ利用可能です。このオプションは、カラーマネジメントがオンかオフかに依存します。例えば、カラーマネジメントがオフに設定されている場合、メニューには、利用可能なプリンタプロファイルが表示されます。カラーマネジメントがオンに設定されている場合、メニューにはあらかじめ用意されているほかのプリンタプロファイルに加えて、CMYK出力デバイスである場合には出力先と同じプロファイルがリストされます。

出力条件: 想定したプリント条件を記述します。この項目は、PDFドキュメントを受け取る人に役立ちます。

出力条件ID: 想定したプリント条件に関する詳細情報のIDを示します。ICCレジストリに含まれるプリント条件の場合、IDは自動的に入力されます。

レジストリ名: レジストリに関する詳細情報のWebアドレスを示します。ICCレジストリ名の場合、URLは自動的に入力されます。

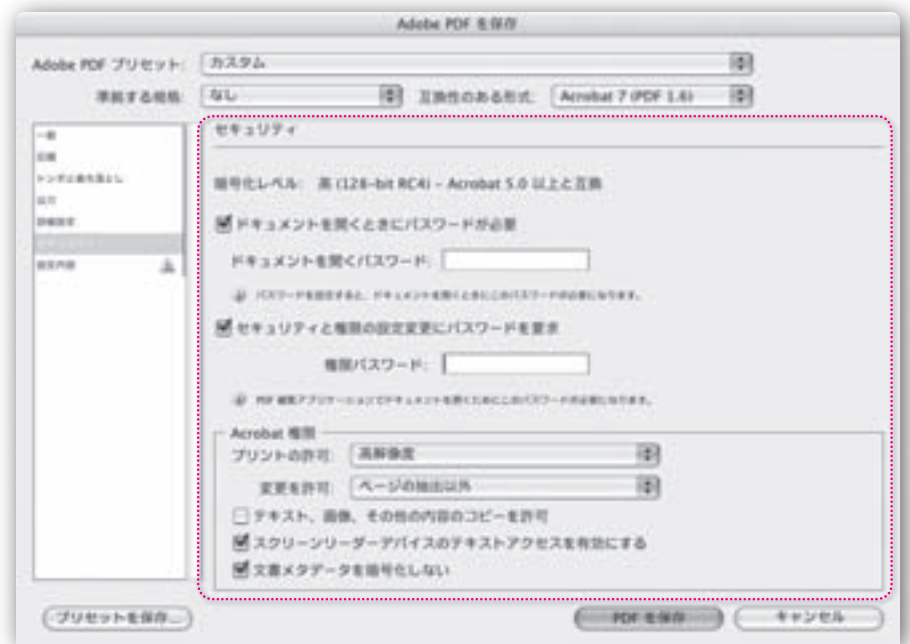
トラップ処理済みとしてマーク: ドキュメントのトラップ状態を示します。PDF/Xに準拠するには、True（選択）またはFalse（選択解除）を指定する必要があります。この要件を満たさないドキュメントはPDF/Xの準拠チェックに失敗します。

詳細設定パネル



InDesign CS2 「詳細パネル」(Page 35を参照)と同様

セキュリティ



InDesign CS2 「セキュリティ」(Page 35を参照)と同様

設定内容パネル



InDesign CS2 「概要パネル」(Page 35を参照)と同様

EPSファイルへのページ書き出し

Adobe InDesign CS2の場合



データ書き出しコマンドを使用して、InDesignのページをEPSファイルに書き出すことができます。EPSファイルは、他のプログラムで読み込むことができます。複数のページを書き出すには、番号をファイル名の末尾に付加して各ページを別々のファイルとして書き出します。例えば、3, 6, 12ページを書き出し、ファイル名を「News.eps」と指定すると、Adobe InDesign CS2では、News_3.eps、News_6.eps、News_12.epsという3つのファイルが作成されます。

ページをEPSファイルとして書き出すには[ファイル] [データ書き出し]を選択します。保存場所とファイル名を指定します。ファイル名には、必ず拡張子「.eps」を付けてください。「EPS」を選択して、「保存」をクリックします。



InDesign CS2のEPS書き出しダイアログボックス

InDesign CS2

解説

一般

出力ページ、カラーモードや裁ち落とし寸法などを指定します。

詳細

OPI、オーバープリント、透明効果の設定を行います。

一般パネル

ダイアログボックスには次の設定があります。

「ページ」セクション

全ページ：ドキュメントのすべてのページを書き出します。

範囲：ページの範囲と種類を選択します。「範囲」を選択してページ範囲を入力します。ハイフンを使用して範囲を入力したり、コンマでページまたは範囲を分割して指定することができます。

見開き印刷：隣り合ったページを1つのEPSファイルとして書き出します。

「断ち落とし」セクション

ページまたはトリミング領域外に配置されているグラフィックを書き出すためのスペースを指定する値を入力します。

EPSファイルに書き出すときは、次のオプションを指定できます。

PostScript：PostScript出力機器のインタープリタとの互換性レベルを指定します。ファイルをPostScript Level 2以降の出力機器でのみ出力する場合は、このオプションを選択することによって、グラフィックの印刷速度と出力品質が改善されることがあります。レベル3では最適のスピードと出力品質を提供しますが、PostScript 3の出力機器が必要です。

カラー：書き出されたファイルでカラーを表示する方法を指定します。ポップアップメニューには、次のオプションがあります。

変更しない：画像が元のカラースペースのままになります。例えば、書き出す際にドキュメントに3つのRGB画像と4つのCMYK画像がある場合、書き出されるファイルには、同じRGB画像とCMYK画像が含まれます。

CMYK：シアン、マゼンダ、イエロー、ブラックのプロセッサカラーインキ全体を使用してすべてのカラー値を表現することによって、分解出力可能なファイルを作成します。

グレー：すべてのカラー値を高品質なモノクロ画像に変換します。変換されたオブジェクトのグレー階調(シェード)は、元のオブジェクトの輝度を表します。

RGB：赤、緑、青の色域を使用してすべてのカラー値を表現します。RGBカラー定義のあるファイルは、画面表示に適しています。

プレビュー：ファイルに保存されるプレビュー画像の種類を指定します。プレビュー画像はEPS画像を直接表示できないアプリケーションで使用されます。プレビュー画像を作成しない場合は、ポップアップメニューから「なし」を選択してください。

埋め込みフォント：書き出したページに、使用されているフォントを組み込む方法を指定します。ポップアップメニューには、次のオプションがあります。

なし：PostScriptファイルに記述されている、フォントへの参照だけが、RIPやポストプロセッサにダウンロードされます。

完全：印刷ジョブを送信する前にドキュメントで使用されているすべてのフォントがプリンタのキャッシュ上にダウンロードされます。

サブセット：指定したフォントのうち、使用した文字(字形)だけが埋め込まれます。グリフはページごとに埋め込まれます。

エンコーディング：コンピュータからプリンタへ画像データを送る方法を指定します。「ASCII」を指定すると、ASCIIテキストとして書き出されます。ASCIIテキストは、旧式のネットワークやパラレルプリンタと互換性があり、通常、複数のプラットフォームで使用されているグラフィックに最も適しています。「バイナリ」を指定すると、バイナ

注意

一部のフォントメーカーは、フォントのファイルへの埋め込みを制限しています。制限はフォントソフトウェアのコピーに適用され、適切な著作権法とライセンス契約条件に従う必要があります。Adobeからライセンスされたフォントソフトウェアの場合、ライセンス契約によって、特定のファイルに使用したフォントのコピーを印刷・出力会社へ持参することを許可しています。印刷・出力会社は、特定のソフトウェアを使用する権利があることを告知されている場合は、このフォントを使用してファイルを処理することができます。その他のフォントソフトウェアについては、それぞれのメーカーの指示に従ってください。

リコードとして書き出されます。バイナリコードは、ASCIIよりもサイズが小さくなりますが、すべてのシステムと互換性があるわけではありません。

詳細パネル

ダイアログボックスには次の設定があります。

「画像」セクション

書き出されたファイルに組みこむ、配置したビットマップ画像の画像データ量を指定します。

解像度：ポップアップメニューには、次のオプションがあります。

すべて：書き出されたファイル内の使用可能なすべての高解像度画像データを組み込むので、ディスク領域を最も多く必要とします。ファイルを高解像度出力機器で出力する場合は、このオプションを選択します。

プロキシ：書き出されたファイルに含まれる配置したビットマップ画像の画面表示用の低解像度バージョン(72 dpi)だけを組み込みます。「OPI画像の置換」オプションを選択した場合、または出力されるPDFファイルを画面上で見ると、このオプションを選択します。

「OPI」セクション

OPI画像の置換：InDesignでは、出力時に、低解像度EPSプロキシのグラフィックを、高解像度のグラフィックに置換することができます。

OPIを無視：画像データをプリンタやファイルに送る際に、OPIサーバで後処理用のOPIリンク(コメント)だけを残し、配置した画像を除くことができます。

「透明の分割・統合」セクション

プリセット：プリセットメニューで分割・統合プリセットを選択して、書き出されたファイルに透明なオブジェクトがどのように表示されるか指定します。

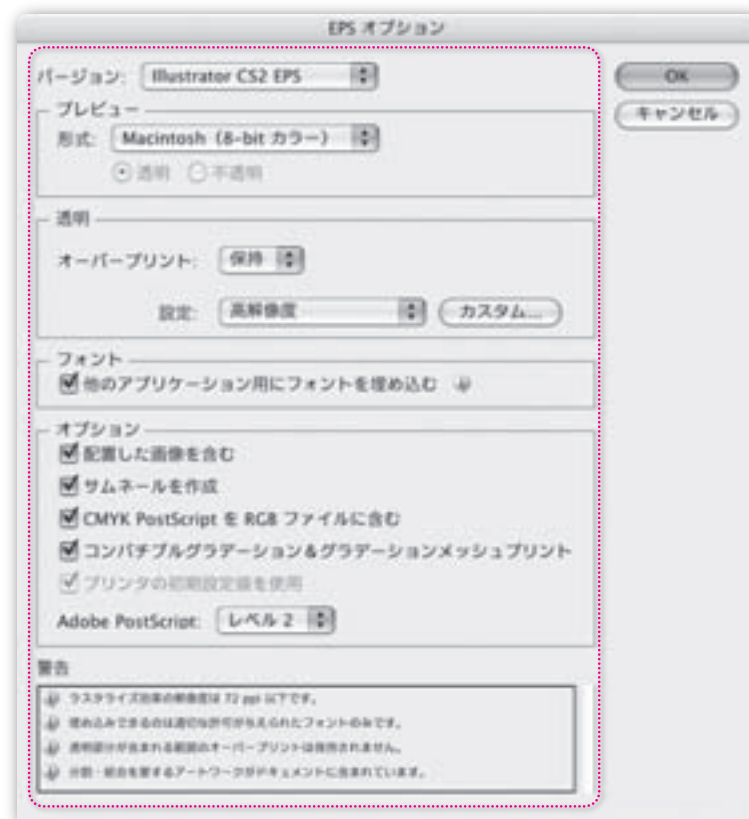
インキ管理：ドキュメントのデザインを変更しないで、インキ設定を修正することができます。



Adobe Illustrator CS2の場合

EPSファイルには、Adobe Illustratorで作成できる数多くのグラフィックオブジェクトが保存され、Illustratorファイルとして再び開いたり編集したりすることができます。EPSファイルはPostScript言語に基づいて作成されるので、ベクトルグラフィックとビットマップグラフィックの両方を含むことができます。

アートワークに透明部分(オーバープリントも含む)があり、高解像度の出力が必要な場合は、[ウィンドウ] [分割・統合プレビュー]を選択して、分割・統合の効果を確認します。



Illustrator CS2のEPSオプションダイアログボックス

Illustrator CS2

	解説
バージョン	EPSのバージョンを指定します。Illustrator 3 EPS形式までサポートしています。
プレビュー	プレビュー形式を指定します。
透明	透明効果の分割・統合などの設定を指定します。
フォント	フォントの埋め込みを指定します。
オプション	PostScriptのバージョンや配置画像の埋め込みなどを指定します。
警告	各項目に関連した注意事項の一覧です。

Adobe Illustrator CS形式のEPSファイル

[ファイル] [別名で保存]または[ファイル] [複製を保存]を選択します。ファイル名を入力し、ファイルの保存先を選択します。ファイル形式として「Illustrator EPS (eps)」を選択して、「保存」ボタンをクリックします。

EPSオプションで、必要に応じて次のオプションを設定し、「OK」をクリックします。

バージョン: CS形式から「Illustrator CS2 EPS」を選択します。

「プレビュー」セクション

形式: ファイルに保存されるプレビュー形式を選択します。プレビュー画像は、EPSファイルを直接表示できないアプリケーションで表示されます。

プレビュー画像を作成しない場合は、形式ポップアップメニューで「なし」を選択します。作成する場合は、「白黒」または「カラー形式」を選択します。

TIFF (8ビットカラー)形式を選択する場合は、プレビュー画像の背景オプションも選択します。「透明」では透明な背景が作成され、「不透明」では塗りつぶされた背景が作成されます。

「透明」セクション

オーバープリント: 重なり合うカラーがオーバープリントに設定されている場合、それらのカラーを保存する方法を指定します。オーバープリントをそのまま保持するか破棄するかを選択できます。

設定: 透明を分割・統合するための設定を指定します。既存の設定を選択するか、または「カスタム」をクリックして分割・統合設定をカスタマイズすることもできます。

「フォント」セクション

他のアプリケーション用にフォントを埋め込む: フォントの製造元により適切な埋め込みが許可されているすべてのフォントを埋め込みます。フォントを埋め込むと、ファイルをInDesignなどの別のアプリケーションに配置したときも、最初に指定したフォントで表示されプリントされます。ただし、該当するフォントがインストールされていないコンピュータで、フォントが埋め込まれたファイルをIllustratorで開くと、フォントは置き換えられます。これは埋め込まれたフォントが不正に使用されるのを防ぐための処置です。

「オプション」セクション

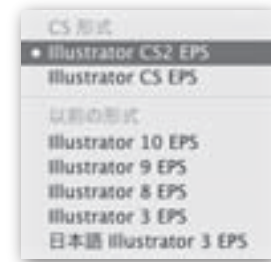
配置した画像を含む: アートワークにリンクされているファイルを埋め込みます。

サムネールを作成: アートワークのサムネール画像を作成します。サムネールは、開くダイアログボックスと配置ダイアログボックスに表示されます。

CMYK PostScriptをRGBファイルに含む: RGB出力をサポートしていないアプリケーションでRGBカラー書類をプリントできます。Adobe Illustrator でEPSファイルを再び開くと、RGBカラーは保持されます。

コンパチブルグラデーション&グラデーションメッシュプリント: 古いプリンタやその他のPostScriptデバイスにおいて、グラデーションオブジェクトをJPEG形式に変換することでグラデーションとグラデーションメッシュをプリントできるようにします。このオプションを選択すると、グラデーションを正しくプリントできるプリンタではプリントの処理速度が低下することがあります。変換後のグラデーションおよびグラデーションメッシュの解像度は、透明の分割・統合設定を作成するときに指定する「グラデーションとメッシュの解像度」オプションにより決定されます。

Adobe PostScript: ファイルの保存に使用するPostScriptのレベルを指定します。



注意

このオプションを選択すると、保存ファイルのサイズが大きくなります。

PostScript Level 2では、グレースケールベクトル画像とビットマップ画像のほかにカラー画像も再現でき、ベクトル画像とビットマップ画像の両方でRGB、CMYK、およびCIEベースのカラーモードがサポートされます。

PostScript 3では、PostScript 3プリンタにプリントするときのメッシュオブジェクトのプリント機能など、Level 2にさらに機能が追加されています。

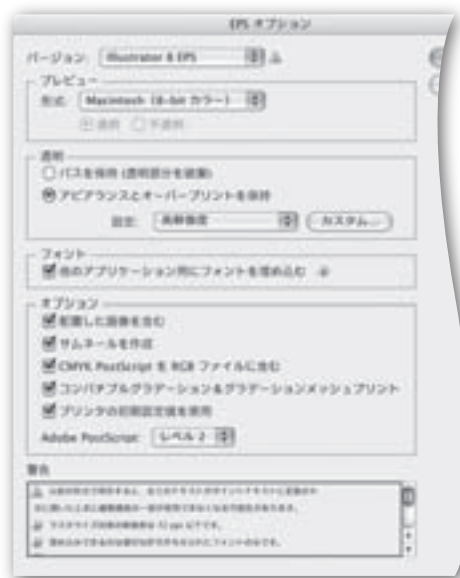
PostScript Level 2のプリンタでグラデーションメッシュオブジェクトをプリントすると、オブジェクトがビットマップ画像に変換されてプリントされるので、グラデーションメッシュオブジェクトを含むアートワークをプリントする場合は、PostScript 3プリンタを使用してください。



以前のバージョンと互換性のあるEPSファイル

[ファイル] [別名で保存]または[ファイル] [複製を保存]を選択します。ファイル名を入力し、ファイルの保存先を選択します。ファイル形式として「Illustrator EPS (eps)」を選択して、「保存」ボタンをクリックします。

Illustratorの以前のバージョンと互換性のあるファイルを作成するには、EPS オプションダイアログボックスの上部にある「バージョン」オプションを設定します。



Illustrator 8 EPS形式で保存する場合のダイアログ

バージョン: 互換性を持たせるIllustratorのバージョンを選択します。

以前のバージョンと互換性のあるEPSでは、グラデーション、レイヤー、透明など一部の機能がサポートされない場合があるので注意してください。オーバープリントや透明部分が含まれているアートワークで高解像度の出力が必要な場合は、ファイルを保存する前に分割・統合の結果をプレビューで確認することをお勧めします。

「プレビュー」セクション

Adobe Illustrator CS形式のEPSファイルと同様

「透明」セクション

パスを保持(透明部分を破棄): 透明を破棄して、透明が使用されているアートワークを100%不透明にリセットします(このオプションはバージョン8以前のバージョンで保存する場合に使用します)。

アピアランスとオーバープリントを保持: 透明オブジェクトと重なり合わない部分のオーバープリントを保持します。透明オブジェクトと重なり合う部分のオーバープリントは分割・統合されます。アートワークに複雑な重なり合う領域があり、高解像度の出力が必要な場合は、ラスターライズの設定を行ってから操作を続けます。

「フォント」セクション

Adobe Illustrator CS形式のEPSファイルと同様

「オプション」セクション

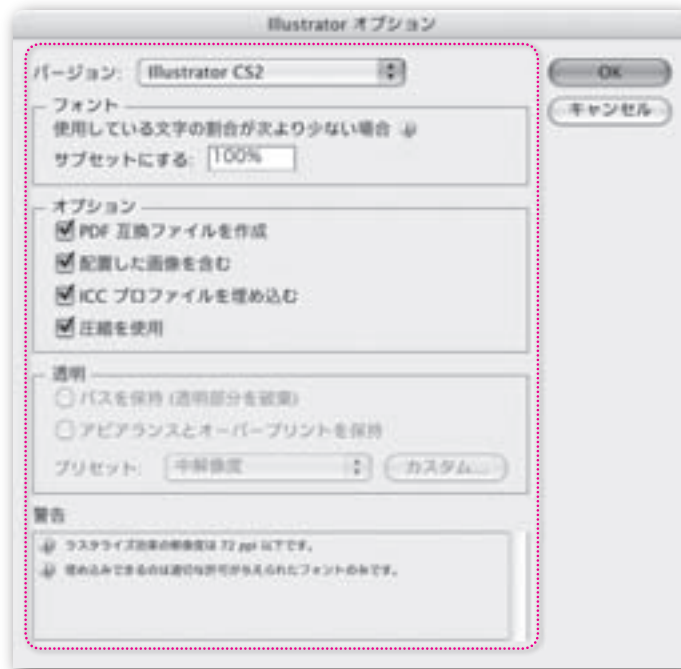
Adobe Illustrator CS形式のEPSファイルと同様



Illustrator書類(.ai)の書き出し

[ファイル] [別名で保存]または[ファイル] [複製を保存]を選択します。ファイル名を入力し、ファイルの保存先を選択します。

ファイル形式として「Adobe Illustrator書類」を選択して「保存」ボタンをクリックします。Illustratorオプションダイアログボックスで、必要に応じてオプションを設定し、「OK」をクリックします。



Illustrator CS2の保存オプションダイアログボックス

Illustrator CS2

解説	
バージョン	EPSのバージョンを指定します。Illustrator 3 EPS形式までサポートしています。
フォント	フォントの埋め込みを指定します。
オプション	PDFの互換性や配置画像の埋め込みなどを指定します。
透明	透明効果の分割・統合などの設定を指定します。
警告	各項目に関連した注意事項の一覧です。

Adobe Illustrator CS形式のIllustrator書類

[ファイル] 「別名で保存」を選択します。ファイル名を入力して、ファイルの保存場所を選択します。「Adobe Illustrator書類」を選択して、「保存」をクリックします。

Illustratorオプションで、必要に応じて次のオプションを設定し、「OK」します。

「フォント」セクション

使用している文字の割合が次より少ない場合サブセットにする：書類で使用されているフォントの文字数によって、文字だけでなくフォント全体を埋め込むかどうかを指定します。1,000文字あるフォントのうち、書類に10文字しか使用されていない場合、フォント全体の埋め込みによってファイルサイズを大きくする必要はないと判断します。

「Adobe Illustrator書類」以外の形式を選択すると、その形式のファイルをIllustratorで再び開いた時に、一部のデータを読み込めない場合があるので注意してください。

作業中は「Adobe Illustrator書類」形式で保存し、完成したアートワークを目的の形式で書き出すことをお勧めします。

「オプション」セクション

PDF 互換ファイルを作成: Illustratorファイルに、PDF形式として使用できるデータを保存します。Illustratorファイルに、ほかのAdobeアプリケーションとの互換性を持たせる場合に、このオプションを選択します。

配置した画像を含む: アートワークにリンクされているファイルを埋め込みます。

ICCプロファイルを埋め込む: 書類にカラープロファイルを埋め込み、カラーマネジメントされた書類を作成します。

圧縮を使用: PDFデータを圧縮してIllustratorファイルに保存します。圧縮を使用すると書類の保存に時間がかかるので、保存時間がとても長くなる場合(8~15分かかる場合)は選択しないでください。



以前のバージョンと互換性のあるIllustrator書類

以前のバージョンと互換性のあるファイルを作成するには、Illustratorオプションダイアログボックスの上部にある「バージョン」オプションを設定します。以前のバージョンのIllustrator書類では、グラデーション、レイヤー、透明、文字設定など一部の機能がサポートされない場合がありますので注意してください。データ書き出ししたファイルをIllustratorの以前のバージョンで開いた場合、Illustrator CS2で作成したレイアウトを保持するために、テキストオブジェクトが分割される場合があります。

Illustratorオプションで、必要に応じて次のオプションを設定し、「OK」します。

バージョン: 互換性を持たせるIllustratorのバージョンを選択します。

以前の形式ではグラデーション、レイヤー、透明、文字設定など一部の機能がサポートされない場合がありますので注意が必要です。

「フォント」セクション

Adobe Illustrator CS形式のIllustrator書類と同様

「オプション」セクション

Adobe Illustrator CS形式のIllustrator書類と同様です。ただし、「PDF互換ファイルを作成」は、Illustrator 10を選択した場合にだけ使用できます。「圧縮を使用」オプションはIllustrator 10を選択し、「PDF互換ファイルを作成」オプションを選択した際に使用できます。「ICCプロファイルを埋め込む」オプションは、Illustrator 9および10形式を選択した場合にだけ使用できます。

「透明」セクション

パスを保持(透明部分を破棄): 透明効果が破棄され、透明が使用されているアートワークの不透明度が100%に、描画モードが「通常」にリセットされます(このオプションはバージョン8以前のバージョンで保存する場合に使用します)。

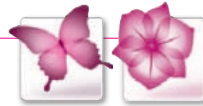
アピアランスとオーバープリントを保持: 透明オブジェクトと重なり合わない部分のオーバープリントが保持されます。透明オブジェクトと重なり合う部分のオーバープリントは分割・統合されます。



Illustrator 10形式で保存する場合のダイアログ



プリント



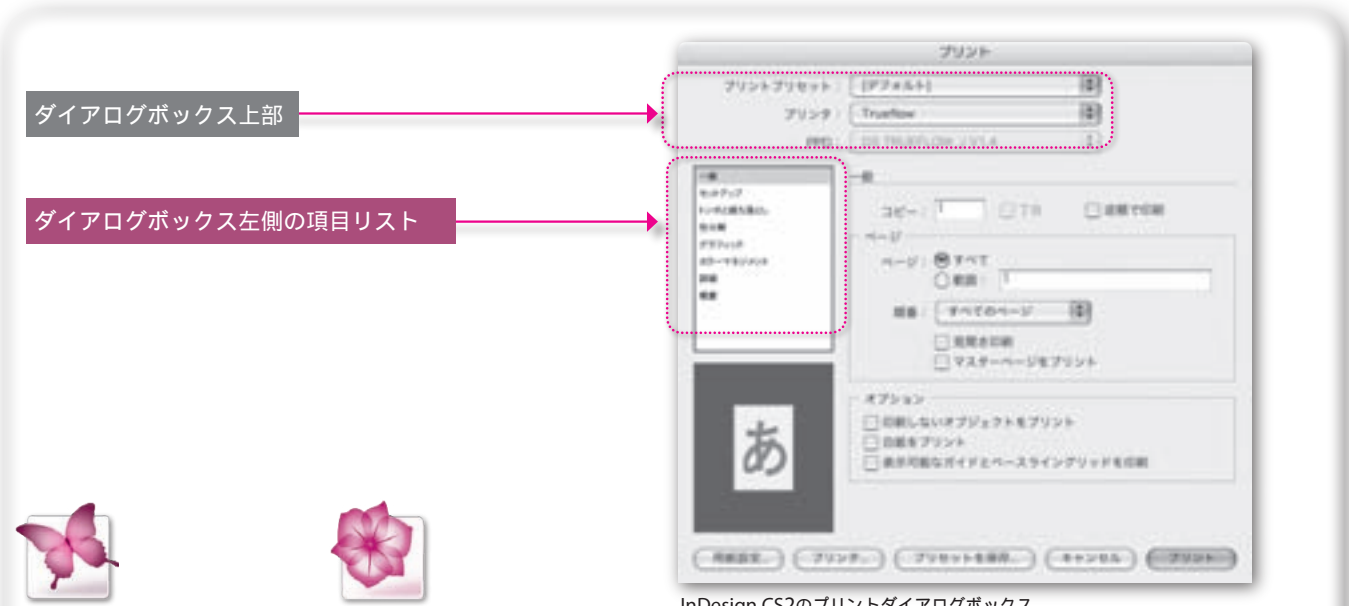
プリントダイアログボックス

共通領域

用紙サイズ、トンボと裁ち落とし、カラーマネジメントの出力プロファイル、透明部分の分割・統合設定など、すべてのプリント設定を、プリントダイアログボックスだけで指定できます。この直感的なユーザインタフェースを使用して、出力の準備を簡単かつ効率的に行うことができます。このインタフェースには常にプレビュー画面が表示されているため、現在のプリント設定が選択したメディアにどのように作用するかを視覚的に確認できます。すべての設定を選択した後で、発生する可能性のある問題や注意点が概要画面に表示されるため、費用のかかるエラーを極力削減できます。

プリントを行うには、プリンタのPPD (PostScriptプリンタの場合) またはプリンタドライバ(非PostScriptプリンタの場合) が必要になります。適切なPPDもしくはプリンタドライバがインストールされていることを確認します。

InDesign CS2およびIllustrator CS2では、プリント処理を合理化し、確実に、一貫した処理を実現できます。



InDesign CS2のプリントダイアログボックス

InDesign CS2

Illustrator CS2

ダイアログボックス上部		解説	
プリントプリセット	⇒ P53	プリントプリセットを指定します。	
プリンタ	⇒ P54	プリンタを指定します。	
PPD	⇒ P54	PPDを指定します。	
ダイアログボックス左側の項目リスト		解説	
一般	⇒ P54	⇒ P60	出力するページや枚数などを指定します。
セットアップ	⇒ P55	⇒ P61	用紙サイズや拡大・縮小率などを指定します。
トンボと裁ち落とし	⇒ P56	⇒ P61	トンボと裁ち落とし、ページ情報などを指定します。
色分解	⇒ P56	⇒ P62	分版出力やそのスクリーン線数などを指定します。
グラフィック	⇒ P57	⇒ P62	グラフィックデータの出力品質などを指定します。
カラーマネジメント	⇒ P58	⇒ P63	出力プロファイルなどを指定します。
詳細	⇒ P59	⇒ P63	OPI、オーバープリント、透明効果の設定を行います。
概要	⇒ P60	⇒ P64	現在の設定を一覧表示します。設定内容をテキストファイルとして保存できます。

プリント機能の多くはPostScriptプリンタ記述ファイル(PPD)に含まれる情報に依存しているため、適切なPPDを選択することが重要です。PPDの設定はオペレーティングシステムで行います。PPDがオペレーティングシステムに指定された場所に保存されていることを確認してください。詳細は、使用するオペレーティングシステムのマニュアルなどを参照してください。

[ファイル]メニューから[プリント]でプリントダイアログボックスを開きます。ドキュメントを、プリンタからまたはファイルとしてプリントするかを設定します(使用したいプリントプリセットがある場合は、プリントダイアログボックス上部の「プリントプリセット(プリント設定)」から選択します)。

プリンタ: ポップアップメニューで次のいずれかを選択します。ドキュメントをプリントするには、使用する「出力デバイス」を選択します。PostScriptファイルを作成する場合は「PostScriptファイル」を選択します。ドキュメントはプリンタではなくファイルとして出力されます。Adobe PDFファイルを作成するには、「Adobe PDF」を選択します。これを選択すると、ドキュメントはプリンタではなくファイルにプリントされます。このオプションは、Acrobat がインストールされている場合にのみ使用できます。

プリントダイアログボックスでは、印刷のオプションがいくつかのパネルとセクションにまとめられています。プリントダイアログボックスで指定した設定は、ドキュメント内に保存されます。



Adobe InDesign CS2の場合

一般パネル

一般パネルには、ほとんどのアプリケーションのプリントダイアログボックスと共通の制御機能があります。ここでは、出力するページの範囲や見開き印刷の設定など、印刷物の形態や範囲の指定を行います。

コピー: ドキュメントを印刷する部数を指定します。

逆順で印刷: ドキュメントのページの順番を逆に印刷します。

「ページ」セクション

すべて: ドキュメントのページをすべて印刷します。これはデフォルトの設定です。

範囲: 現在のドキュメントで印刷するページの範囲を指定します。範囲はハイフンを使用して指定します。複数のページまたは複数の範囲を指定する場合は、それぞれをカンマまたはスペースで区切ります。

順番: 「すべてのページ」は、ドキュメントのページをすべて印刷します。「偶数ページのみ」または「奇数ページのみ」は、指定した範囲内の該当するページだけを印刷します。これらのオプションは、見開き印刷を設定した場合は使用できません。

見開き印刷: 綴じられた見開きページを一緒に1枚の用紙に印刷します。印刷できるのは、1枚の用紙に1つの見開きのみです。新しく印刷するページが現在選択されている用紙サイズよりも大きい場合は、可能な範囲までが印刷され、用紙サイズに合うように自動的にページが縮小されることはありません。この場合、1枚の用紙に見開きが収まるように縮小印刷するには、「セットアップ」パネルで「拡大/縮小」の「幅に合わせる」オプションを選択してください。また、用紙の方向を横方向に指定することによって、1枚の用紙に印刷されるようにすることもできます。

マスターページをプリント: ドキュメントページではなく、すべてのマスターページを印刷します。このオプションを選択すると「範囲」オプションは使用できなくなります。

「オプション」セクション

印刷しないオブジェクトをプリント: 印刷しないオブジェクトを個別に設定しているかどうかにかかわらず、すべてのオブジェクトを印刷します。

白紙をプリント: テキストやオブジェクトがない白紙ページを含んだ状態でプリントさせたい場合、これを選択すると、指定した範囲のすべてのページを印刷します。このオプ



ページやページ範囲指定のヒント

「11-」は、ページ番号「11」からドキュメントの最後のページまでを指定します。

「-11」は、ページ番号「11」までの、ドキュメント内のすべてのページを指定します。

「1,3-8,11」は、ページ「1」、「3-8」、および「11」を指定します。

「+11」は、ドキュメントの11番目のページを指定します。

「-+11」は、ドキュメントの11番目のページまでの、ドキュメント内のすべてのページを指定します。

「+11-」は、ドキュメントの11番目のページからドキュメントの最後のページまでのすべてのページを指定します。

「+1,+3-+8,+11」は、ドキュメントで最初のページ、3から8番目のページ、および11番目のページを指定します。

ションは、分版出力する場合には使用できません。

セットアップパネル

出力する用紙サイズや用紙方向の指定と、拡大縮小の設定を行います。

「用紙サイズ」セクション

選択しているプリンタのPPDに記載されたどのサイズでも選択することができます。選択したプリンタとPPDがカスタム用紙サイズをサポートしている場合は、[用紙サイズ]のメニューに「カスタム」のオプションが表示されます。

用紙の幅、用紙の高さ: カスタムページの場合には、用紙の幅と高さのサイズ設定を行います。ドキュメントの内容、印刷マーク、断ち落としなどのために必要最小限のサイズを決定するには、「用紙の幅」、「用紙の高さ」でそれぞれ「自動」を選択します。デフォルトも「自動」が選択されています。デフォルトより大きな用紙サイズを指定するには、プリンタやイメージセッタの印字不可能領域の境界を超えない範囲で必要な値を入力します。

方向: ほとんどの場合、[ファイル] [ドキュメント設定] コマンドで指定したページの方向と、プリントダイアログボックスの[セットアップパネル]で指定した紙の方向は、縦方向でも横方向印刷でも一致しています。見開きページを印刷する場合は、1枚の紙に見開きの全ページが収まるように用紙サイズと方向(縦または横置きなど)を確認する必要があります。

オフセット: プリント画像の左側の空白部分のサイズを指定します。例えば、「20ポイント」と入力すると、右方向に20ポイントずれたところからページが印刷されます。

ページの間隔: 連続用紙に印刷する場合、ページとページの間隔を指定します。

幅と高さを入れ換える: 用紙とページ内容の向きをいっしょに変える場合にこれを選択します。「オフセット」オプションとともに使用すると、フィルムや用紙の使用量を効率的に配置できる場合があります。

「オプション」セクション

ここでは、拡大/縮小指示のほかに、「タイル印刷」と「サムネール印刷」を指定でき、ページの内容がどのように印刷されるかを確認できます。

拡大/縮小: ドキュメントの現在の縦横の比率を維持するには、「縦横の比率を固定」を選択します。縦横の比率を維持しない場合は、このオプションの選択が解除されていることを確認します。続いて、「幅」と「高さ」ボックスに、1~1000%の範囲で数値を入力します。「縦横の比率を固定」を選択している場合、片方の値を入力すれば、もう一方の値も自動的に置き換えられます。デフォルトは100%です。

幅に合わせる: ドキュメントを自動的に拡大/縮小印刷する場合に使用します。このオプションがチェックされると、選択したPPDで定義されている印刷可能領域によって自動的に計算される拡大/縮小率が表示されます。但し、「タイル」が選択されていると「幅に合わせる」は使用できません。

ページの位置: ページ位置を変更する際に使用します。プルダウンメニューから希望する位置を選択します。デフォルトでは「中央揃え」が選択されています。

サムネール: (1ページ中)1つの用紙に複数のページを配置する場合に、サムネールで印刷します。サムネールは、ページの構成と内容を確認するのに便利です。用紙にページが最も適切に収まるように、用紙方向が自動的に調整されます。

タイル: ドキュメントをプリンタで使用可能な用紙サイズに合わせて、分割して印刷します。



[ドキュメント設定]ダイアログボックスで定義したページサイズと、印刷する用紙サイズを混同しないようにします。ページサイズがA4でも、トンボや裁ち落としの幅が必要ならば、A4サイズよりも大きいエリアを指示しなければなりません。印字可能な用紙サイズは、選択したプリンタのPPD(PostScriptプリンタの場合)またはプリンタドライバ(非PostScriptプリンタの場合)によって異なります。



注意

「西洋トンボ」を選択すると、内トンボは「オフセット」で指定している位置に印刷され、外トンボは、「裁ち落とし」で指定している位置に印刷されます。指定した値によっては、外トンボと内トンボの位置が逆転する場合があります。日本国内での印刷では、西洋トンボを使わず「丸付きセンタートンボ」または「丸なしセンタートンボ」を使用することをお勧めします。

トンボと裁ち落としパネル

このパネルでは、ページ境界線の外側に印刷される様々な記号を選択することができます。すべてのマークをオンにしたり、裁ち落としの量も指定できます。

「トンボとページ情報」セクション

種類: トンボの種類を選択します。デフォルトは「丸付きセンタートンボ」です。

オフセット: 「西洋トンボ」を指定した場合のみ、印刷する用紙に対して、ドキュメントの座標値(左上隅が起点)を変更することができます。

太さ: トンボの線の太さを選択します。デフォルトは0.10mmに設定されています。

すべてのトンボとページ情報を印刷: このオプションを選択すると、内トンボ、外トンボ、センタートンボ、カラーバー、ページ情報など印刷マークがすべて選択されます。

内トンボ: 最終の仕上がり(ドキュメントのページサイズ)で、断裁される位置の指定を追加します。外トンボを合わせて使用することによって二重トンボを指定できます。

外トンボ: 外トンボの位置は「裁ち落とし」で設定できます。内トンボと組み合わせて使用の場合はL字型のラインになります。

センタートンボ: カラードキュメントで別の色分解出力した各版と見当を合わせるために使用します。レジストレーションマークともいいます。

カラーバー: CMYKのインキとグレーの階調(10%ずつ増加)を表す小さなカラーの四角形を追加します。印刷・出力会社は、カラーバーを使用して印刷機のインキ濃度を調整します。

ページ情報: 用紙またはフィルムの各シートに、ファイル名、ページ番号、現在の日時、色版名を印刷します。

「裁ち落としと印刷可能領域」セクション

ドキュメントの裁ち落とし設定を使用: ドキュメント設定アップダイアログボックスで指定された裁ち落とし領域を使用してプリントします。

裁ち落とし: トンボの幅を四辺単独で指定することができます。トンボの幅を均等に拡張するには、「すべての設定を同一にする」アイコンをクリックします。

印刷可能領域を含む: ドキュメント設定ダイアログボックスで定義された印刷可能領域を使用してプリントします。



色分解パネル

このパネルでは、コンポジットまたは分版出力の指定、カスタムでのスクリーン線数、およびスクリーン角度の指定を行います。「色分解」が選択されていると、出力するインキを指定したり、特色インキをプロセスインキに変換するかどうかを設定できます。

カラー: ドキュメントのコンポジットカラーがどのようにプリンタに送信されるかを設定します。コンポジットカラーモードは、ラスター画像、およびInDesign CS2上で作成されたオブジェクトにのみ適用されます。透明オブジェクトと重なり合わない配置されたグラフィック(EPS、PDFなど)には適用されません。ポップアップメニューには、次のオプションがあります。

コンポジットの変更なし: 元のドキュメントのすべてのカラー値を維持して、指定したページのフルカラーのデータをプリンタに送信します。このオプションが選択されていると、「オーバープリント処理」は使用不可になります。

コンポジットグレー: 指定したページのグレースケールのデータをプリンタに送信します。例えば、色分解をしないでモノクロプリンタで印刷する場合などに使用します。

コンジョットRGB：指定したページのフルカラーのデータをプリンタに送信します。色分解をしないでRGBカラープリンタで印刷する場合などに使用します。

コンジョットCMYK：指定したページのフルカラーのデータをプリンタに送信します。色分解をしないでCMYKカラープリンタで印刷する場合に使用します。このオプションはPostScriptプリンタでのみ使用できます。

色分解 (InDesign)：InDesign CS2側で分解出力する時に指定します。

色分解 (In-RIP)：RIPに搭載されたIn-RIP機能により、RIP側で分解出力する時に指定します。

テキストを黒：作成されたテキストのカラーが[なし]または[紙色]またはカラー値が白と等しくなければ、すべて黒で印刷します。

トラップ：ウィンドウメニューのトラッププリセットでトラップを設定している場合、InDesign CS2にてトラッピングを行うことができます。また、Adobe In-RIPトラップをサポートしているPostScript 3対応の出力機を使用することも可能です。

反転：膜面の指定を行います。

ネガ：ポジかネガの指定を行います。

スクリーン：コンジョットモードでは、デフォルトか、選択されているPPDに記載された解像度のいずれかを選ぶことができます。色分解 (InDesign) または色分解 (In-RIP) では、選択されているPPDが対応している最適な出力線数と解像度のリストが表示されます。さらに、下段にある「インキ設定」にてカスタムのスクリーン線数およびスクリーン角度の設定が行えます。

「インキ」セクション

使用しているインキの設定が確認できるようになっています。

インキ管理：「インキ管理」ボタンをクリックすると「インキ管理」のダイアログボックスが表示されます。各インキのND値や出力の順番の変更が可能です。さらに、色付きの紙に印刷する場合を考慮して、顔料比率の高いオペクインキの指定なども行えます。すべての特色をプロセスカラーに変更する場合もここで行います。

オーバープリント処理：多くのデスクトッププリンタではオーバープリントをサポートしていないため、このオプションを選択することで、オーバープリントの効果をシミュレーションすることができます。ただし「オーバープリント処理」を選択すると、印刷時に特色はプロセスカラーに変換されます。ドキュメントをRIPで色分解したり、最終出力したりする予定がある場合、このオプションは選択しないでください。



グラフィックパネル

ここでは、ビットマップ画像、EPSグラフィック、PDFページをPostScriptプリンタで最も効率よく印刷するためのさまざまなオプションが用意されています。イメージ解像度、フォント、グラデーションをどのように扱うかなどを指定します。また、プリンタにフォントをダウンロードする方法も指定することができます。選択したオプションに応じて、出力されるPostScriptファイルの容量が決まります。

「画像」セクション

EPSグラフィックまたはPDFページなどの高解像度画像を配置しているドキュメントを印刷する場合、最良の印刷結果を得るためには、解像度やラスターサイズ設定などを調整する必要があります。

解像度：プリンタまたはファイルへ送るビットマップ画像データの品質を制御します。

すべて：最高解像度 (画像に設定されている解像度) のデータがプリンタまたはファイルへ送られます。商業用印刷や、特色を含む黒と白のテキストのようなコント



ラストの強いグレースケールまたはカラー画像の印刷に適していますが、最も多くのディスク容量を必要とします。

サブサンプリングを最適化する：出力機器の最高解像度で最適化された十分な画像データが送られます。高解像度の画像をデスクトッププリンタで校正刷りする場合などは、このオプションを選択します。

プロキシ：配置した画像の画面表示用のビットマップデータが送られます。画面レビュー程度の品質で出力を行うため、印刷時間は短縮されます。

なし：印刷時にすべての画像データを除いて出力します。画像部分を×印の付いたグラフィックフレームに置き換えて、印刷時間を短縮します。グラフィックフレームは、配置したグラフィックと同じサイズなので、サイズと位置関係は確認することができます。

「フォント」セクション

プリンタへどのようにフォントをダウンロードするかを管理するオプションです。フォントがコンピュータのハードディスクにインストールされている場合、印刷時にはそれらのフォントを必要に応じてダウンロードされます。

ダウンロード：プリンタへのフォントのダウンロードの方法を制御します。

なし：PostScriptファイルに記述されているフォントへの参照だけが、RIPやポストプロセッサにダウンロードされます。このオプションは、フォントが常駐しているプリンタの場合に適しています。TrueTypeフォントは、フォントのPostScript名に従って印刷に使用するフォントが指定されます。ただし、すべてのアプリケーションがこれらの名前を認識するとは限りません。TrueTypeフォントを正しく印刷するには、フォントをダウンロードする他のオプションを選択してください。

完全：プリンタジョブの最初にドキュメントで要求されるすべてのフォントがダウンロードされます。環境設定ダイアログボックスで指定した字形(グリフ)数の最大数より多くのサブセットフォントが自動的にダウンロードされます。

サブセット：使用されている字形だけがダウンロードされます。字形はページごとにダウンロードされます。このオプションは、1ページのドキュメント、またはほとんどテキストのない短いドキュメントで使用するとき、PostScriptファイルをより早く、より小さく書き出すことができます。

PPDフォントダウンロード：プリンタのRIPに、印刷に必要なフォントが常駐フォントとしてある場合でも、PPDファイルの記述内にある、すべてのフォントをダウンロードして印刷します。即ち、コンピュータ内にあるフォントのアウトラインが印刷時に常に使用されます。これにより、コンピュータとプリンタ間でのフォントのバージョンの不整合による問題は起こらなくなります。

PostScriptレベル：PostScript対応の出力機器のインタープリタとの互換性レベルを指定します。出力デバイスのPostScriptレベルに合わせて選択してください。

データ形式：コンピュータからプリンタへ送信される画像データのエンコード方式を指定します。「ASCII」を選択すると、ASCIIテキストとして送信されます。ASCIIは、古いネットワークやパラレル接続のプリンタと互換性があり、複数のプラットフォームで使用するグラフィックのためには最良の選択です。「バイナリ」を選択すると、バイナリコードとして書き出されます。バイナリはASCIIよりコンパクトなデータですが、すべてのシステムとは互換性がない可能性があります。

カラーマネジメントパネル

以下のオプションを使用する場合は、[編集] [カラー設定]ダイアログボックスでカラーマネジメント用に書類を設定しておく必要があります。

「プリント」セクション

ドキュメント: ドキュメントのプロファイルの名前を表示します。ドキュメントにプロファイルが埋め込まれていない場合は、カラー設定ダイアログボックスで指定されたプロファイルが表示されます。「InDesignでカラーを決定」を選択している場合は「プリンタプロファイル」でプリンタのプロファイルを設定します。

校正: プリプレス用プリンタなど、他のデバイスでどのように出力されるかをエミュレートしてドキュメントをプリントします。校正プロファイルには、シミュレートするデバイスへのカラー変換に使用されるプロファイルの名前が表示されます。これは、[表示]メニュー [校正設定] コマンドで指定します。



「オプション」セクション

カラーの処理: カラーマネジメントを使用する際にアプリケーションで行うか、プリントデバイスで行うかを決定します。

InDesignでカラーを決定: このワークフローでは、アプリケーションがカラー変換をすべて行い、出力機器に固有のカラーデータを生成します。アプリケーションは、割り当てられたカラープロファイルを使用して色を出力機器の色域に変換し、変換後のカラー値を出力機器に送信します。

PostScriptプリンタでカラーを決定: このワークフローでは、アプリケーションはカラー変換を行いませんが、カラー変換に必要な情報をすべて出力機器に送信します。

プリンタプロファイル: 使用するプリンタと用紙の種類に応じたプロファイルを選択します。

CMYK番号を保持: このオプションをオフにすると、すべてのカラー番号がカラー変換対象になります。オンにすると、プロファイルが埋め込まれていないCMYKオブジェクトおよびネイティブオブジェクト(ラインアートや文字)はカラー変換の対象になりません。出力デバイスのプロファイルと異なるプロファイルを使用する画像は変換されます。

紙色をシミュレート: 目的のデバイスで出力した時の見た目をシミュレートします。

詳細パネル

このパネルでは、OPIを使用した場合の設定や透明効果の設定ダイアログです。

「OPI」セクション

OPIオプションを使用すると、画像データがプリンタやファイルに送信される時に、OPIサーバで後処理用のOPIリンク(コメント)だけを残し、形式によって配置した画像を選択して除外することができます。

OPI画像の置換: 出力時に低解像度のEPSプロキシ画像を高解像度画像に置き換えます。OPI画像の置換で作業するには、EPSファイルは低解像度のプロキシ画像を高解像度画像にリンクするOPIコメントを含んでいる必要があります。InDesign CS2は、OPIコメントでリンクされた画像にアクセスします。高解像度のバージョンが使用できない場合、OPIリンクを保持して、低解像度プロキシでファイルに書き出します。以降のワークフローでOPIサーバがリンク画像を置換するようにするには、このオプションの選択を解除します。

OPIを無視: 画像データをプリンタやファイルに送るときに、OPIサーバで後処理用のOPIリンク(コメント)だけを残し、指定した形式と異なる配置した画像(EPS、PDF、ビットマップ画像)を印刷時に除外します。コメントは、OPIサーバ上で高解像度画像の保存場所を見つけるために必要な情報を含んでいます。InDesignはコメントを含んでいるだけなので、出力・印刷会社は置換時にサーバ上にある元の高解像度画像にアクセスする必要があります。このオプションは、埋め込まれた画像には適用されません。



「透明の分割・統合」セクション

プリセット: あらかじめ、3つの定義済みの透明の分割・統合プリセットが用意されています。これらの設定はドキュメントでの使用の意図によって、ラスターライズされた透明領域に適切な解像度で統合の品質とスピードに適合するように設定されています。

低解像度: モノクロのデスクトッププリンタで、すばやく校正刷りを印刷したり、Web出版やSVGに書き出すドキュメントに使用します。

中解像度: デスクトップ校正やオンデマンドドキュメントをPostScriptカラープリンタでの印刷する場合に使用します。

高解像度: 最終的に商業印刷での出力や色分解校正のような高品質の校正刷りに使用します。

スプレッドオーバーライドを無視: ページパレットサブメニューのスプレッドの単層化にて、各スプレッドごとに設定した透明統合スタイルを無効にして、プリセットで選択したスタイルをドキュメント上のすべての透明に反映させるために使用します。



概要パネル

ここでは、選択しているデバイスや、他のダイアログで設定した内容を一覧表示で見ることができます。印刷を行う前に、出力設定を確認し、必要ならば設定の調整を行ってください。

概要を保存: 結果をテキスト形式で書き出すこともできます。

Adobe Illustrator CS2の場合



一般パネル

プリントダイアログボックスの「一般」オプションを使用すると、プリントするページと部数の指定、用紙のサイズとアートワークの方向の設定、書類の拡大・縮小、プリントまたは色分解するレイヤーの選択を行えます。

ページ: アートワークを複数のページに分けて印刷する場合、ここでプリントするページを指定します。

すべて: すべてのページがプリントされます。

範囲: ページ範囲を入力します。連続するページの範囲は、数字と数字の間をハイフンで区切って入力し、連続しないページまたは範囲は、コンマで区切って入力します。

白紙をプリントしない: アートワークが含まれていないページはすべて無視されます。

部数: プリントする部数を指定します。

丁合い: 1部全体をプリントしてから、2部目をプリントします。このオプションが選択されていない場合、1ページが全部数分プリントされてから、次のページが全部数分プリントされます(以降のページも同様です)。

逆順で印刷: 逆の順序でページをプリントします。

「オプション」セクション

プリントするレイヤー: プリントするレイヤーを指定します。



表示中でプリント可能なレイヤー：表示されているプリント可能なレイヤー、つまり、コンボジットの校正を作成するときにプリントされるレイヤーのみがプリントされます。

表示中のレイヤー：表示されているレイヤーのみがプリントされます。

すべてのレイヤー：すべてのレイヤーがプリントされます。

拡大・縮小しない：拡大・縮小を行いません。

用紙サイズに合わせる：書類を自動的に拡大・縮小して、用紙に合わせます。拡大・縮小率は、選択した PPD で定義されているプリント可能範囲によって決まります。

指定倍率：「幅」テキストボックスおよび「高さ」テキストボックスがアクティブになり、数値が入力できるようになります。

縦横の比率を固定ボタン：書類の現在の幅と高さの比率を維持します。

幅：「指定倍率」を選択した場合に、幅を指定します。

高さ：「指定倍率」を選択した場合に、高さを指定します。

セットアップパネル

プリント用バウンディングボックス(プリント範囲)を基準にして、書類上にプリンタのマークの位置が設定され、アートワークのプリント可能範囲およびアートワーク上にあるプリントされない部分(方向線など)が指定されます。

また、「セットアップ」パネルでは、プリント可能範囲またはアートワークが配置される最初のページを指定できます。例えば、フィルムまたはプリントするページにアートワークが適切に収まるように、アートワークの配置を変更できます。

トリミング：アートボードをアートボードで切り抜くか、書類内の全アートワークのバウンディングボックスで切り抜くか、定義されたトンボで切り抜くかを指定します。

「オプション」セクション

配置：正方形のいずれかをクリックすると、プリント可能範囲の原点または配置される最初のページが指定されます。

原点 X：X(水平)軸方向の原点を指定します。

原点 Y：Y(垂直)軸方向の原点を指定します。

タイル：ページをどのように区別するかを指定します。

1ページのみ：1ページのみを表示およびプリントします。

用紙サイズで区別：アートボード内に収まるページ数で分割します。部分的にしか表示またはプリントされないページは作成されません。

プリント可能範囲で区別：すべてのアートワークをプリントできるように、アートボードを必要なセクション数で分割します。

重なり：「用紙サイズで区別」を選択した場合、「重なり」オプションに値を設定してページが重なり合う部分を指定します。



トンボと裁ち落としパネル

ダイアログボックスには次の設定があります。

「トンボ」セクション

すべてのトンボとページ情報をプリント：プリンタマークを一度にすべて選択します。

トンボ：ページをトリミングする位置を定義するための水平と垂直の細い罫線(ヘアライン)を追加します。トンボは、色分解出力した各色版の位置を正確に見当合わせする



ために使用されます。

レジストレーションマーク: カラー書類内の各色版を正しく重ねるために、ページ範囲の外側に小さな「ターゲット」を追加します。

カラーバー: CMYKインキおよび10%単位のグレーの濃度を表す小さな正方形を追加します。このマークは、出力センターや印刷会社が印刷機のインキ濃度を調節するために使用します。

ページ情報: 用紙、またはフィルムの各シートにファイル名、プリントアウトの日時、スクリーン線数、スクリーン角度およびカラー名がラベルとして追加されます。ラベルは画像の最上部にプリントされます。

種類: 西洋式トンボと日本式トンボがあります。

太さ: トンボの線幅を指定します。

オフセット: トンボとアートワーク間の距離を指定します。トンボが裁ち落とし上に配置されないようにするには「オフセット」に「裁ち落とし」より大きい値を入力します。

「裁ち落とし」セクション

天、地、左、右: 0~25.4ミリの範囲で、裁ち落としマークの配置を指定します。

: このアイコンをクリックすると「天」「地」「左」「右」に同じ値が入力されます。



色分解パネル

ダイアログボックスには次の設定があります。


色分解: カラー画像のプリント用に「コンポジット」、「色分解 (Illustrator)」、「色分解 (In-RIP)」のいずれかを指定できます。なお「色分解 (In-RIP)」オプションは、Adobe PostScript 3プリンタを使用し、PPDファイルがIn-RIP色分解をサポートしている場合にのみ使用できます。

膜面: 感光面を正面から見たときの種類を、「上 (正像)」または「下 (正像)」のいずれかで指定できます。種類を変更すると、画像が反転します。

画像: 「ポジ出力」または「ネガ出力」のいずれかを指定します。

プリンタ解像度: あらかじめ設定された、選択可能なハーフトーンスクリーン線数とプリンタ解像度の組み合わせが表示されます。

オーバープリントブラック: ブラックをオーバープリントするかどうかを指定します。

すべての特色をプロセスカラーに変換: すべての特色をプロセスカラーに変換するかどうかを指定します。「インキオプション」の下に一覧表示されているすべての特色の横に、4色分解処理アイコン  が表示されます。

インキオプション: あらかじめ設定されているプリンタ解像度以外を指定する必要がある場合は、各色版のカスタムの解像度を指定できます。ただし、角度と線数の初期設定値は、選択したPPDファイルによって決まります。ハーフトーンスクリーンを独自に設定する場合は、最適な設定値について印刷・出力会社にお問い合わせください。



グラフィックパネル

プリントダイアログボックスの「グラフィック」パネルのオプションを使用すると、パス、フォント、PostScript情報およびグラデーションオブジェクトやメッシュオブジェクトのプリント時の処理方法を指定できます。

「パス」セクション

平滑度: アートワークの曲線を近似する度合いを指定します。値を低く設定（「高画質」

寄りに設定)すると、直線セグメントが小さくなって数が増え、曲線の近似精度が高くなります。値を高く設定(「速度」寄りに設定)すると、直線セグメントが長くなって数が減少し、曲線の精度は劣りますが、パフォーマンスが向上します。

「フォント」セクション

なし: InDesign CS2の「なし」と同様

サブセットのみ: InDesign CS2の「サブセット」と同様

すべてのフォント: InDesign CS2の「完全」と同様

「オプション」セクション

PostScript: InDesign CS2の「PostScriptレベル」と同様

データ形式: InDesign CS2の「データ形式」と同様

コンパチブルグラデーション & グラデーションメッシュプリント: グラデーションとグラデーションメッシュをプリント用に JPEG 形式に変換します。変換後のグラデーションおよびグラデーションメッシュの解像度は、透明の分割・統合設定を行う際に、「グラデーションとメッシュの解像度」オプションで設定します。

カラーマネジメントパネル

以下のオプションを使用する場合は、[編集] [カラー設定]ダイアログボックスでカラーマネジメント用に書類を設定しておく必要があります。

「プリント方法」セクション

ドキュメントのプロファイル: ドキュメントプロファイルの名前を表示します。ドキュメントに埋め込まれたプロファイルが無い場合は、カラー設定ダイアログボックスで指定したプロファイルが表示されます。

カラー処理: カラーマネジメントをアプリケーション側とプリンタ側のどちらで実行するかを決定します。

Illustratorのカラー設定: プリント時にアプリケーション側でカラー管理する場合に選択します。外観を保持するために、選択したプリンタに適したカラー値への必要に応じて実行されます。

PostScriptのカラー設定: プリント時にプリンタ側でカラー管理する場合に選択します。PostScriptプリンタはドキュメントのカラー値を変更します。

プロファイル: 使用するプリンタと用紙の種類に応じたプロファイルを選択します。

マッチング方法: カラーを目的のカラー空間に変換する方法を指定します。ほとんどの場合、初期設定のマッチング方法を使用するのが最善です。

CMYKカラー値を保持:(CMYK出力の場合)このオプションをオフにすると、すべてのカラー値がカラー変換の対象になります。オンにすると、プロファイルが埋め込まれていないCMYKオブジェクトおよびネイティブオブジェクト(ラインアートや文字)はカラー変換の対象になりません。出力デバイスのプロファイルと異なるプロファイルを使用する画像は変換されます。



注意

ドキュメントでアートワークのカラーマネジメントを行っている場合、埋め込まれたPDF画像およびEPS画像は書類の一部であるため、プリンタへの送信時にカラーマネジメントが実行されます。一方、リンクされたPDF画像およびEPS画像の場合、ドキュメント自体でカラーマネジメントが行われていても、リンク画像のカラーマネジメントは行われません。

詳細設定パネル

詳細設定パネルのオプションを使用すると、低解像度のプリンタ、一部の非PostScriptプリンタ、PostScriptプリントとビットマッププリントの両方をサポートするプリンタでプリントする場合に、アートワークをビットマップ画像としてプリントできます。また、オーバープリントと透明の処理を指定できます。



ビットマッププリント:書類をビットマップ画像としてプリントします。このオプションは、使用するプリンタのプリンタドライバがビットマッププリントをサポートしている場合にのみ使用できます。低解像度プリンタ、非PostScriptプリンタ、およびビットマッププリントをサポートするプリンタで、スムーズな陰影やグラデーションなどの複雑なオブジェクトを含む書類をプリントする場合は、このオプションが便利です。プリントの速度は低下することがありますが、エラーが発生する可能性は低くなります。

「オーバープリントおよび透明の分割・統合オプション」セクション

オーバープリント:オーバープリントの処理方法を指定します。

保持:オーバープリントが保持されます。

シミュレート:コンポジット出力で、オーバープリントの Appearance が保持されます。

破棄:属性パレットで設定した「塗りにオーバープリント」や「線にオーバープリント」は、コンポジットに反映されません。

設定:あらかじめ定義された透明の分割・統合設定が用意されています。各設定は、書類の用途に応じて、透明部分のラスターライズに適した解像度と、それに見合った分割・統合処理の品質と速度が設定されるように設計されています。設定の内容は、InDesign CS2の「透明の分割・統合」セクションの「プリセット」と同様です。必要であれば、カスタムボタンをクリックして、既存の設定を基にして新規設定の作成が可能です。



設定内容パネル

プリント前にプリント設定を表示し、その後必要に応じて調整できます。

オプション:プリント設定が一覧表示されます。リスト項目の横にある三角形をクリックして、詳細を表示します。

警告:特色、オーバープリント、分割・統合処理の必要な領域、色域外のカラーなどに関して、確認が必要なすべての特記事項が表示されます。

設定内容を保存:設定内容をテキストファイルで保存します。設定内容を保存するには、「設定内容を保存」をクリックし、名前と場所を入力して、「保存」をクリックします。

プリント設定の合理化: プリントプリセット



特定のデバイス用にあらかじめ設定しておくことができる名前付きのプリントプリセットが用意されており、これを使用することにより、時間を節約し、ミスを減らすことができます。あらかじめ定義されたプリント設定はスタイルのように機能するため、毎回同じプリントオプションを適用することができます。

印刷・出力会社では、自社で扱っているすべてのデバイス用にこれらの設定を作成しておき、一般的なプリント作業を自動化できます。デザイン会社では、校正用のプリンタごとにプリントプリセットを定義しておくことで、各デバイスで通常使用するオプションを簡単に設定できます。

これにより、重要なオプションが誤って設定されている場合によく発生する問題の調査の多くが削減されます。また、プリント工程も合理化され、効率的で確実なワークフローを実現できます。一旦プリントプリセットが設定できたら、他のコンピュータにこのプリントプリセットを簡単に共有できます。共有したい設定を保存し、書き出した設定を [プリントプリセット] で読み込んでください。



Adobe Creative Suite 2



Adobe **Illustrator** CS2 日本語



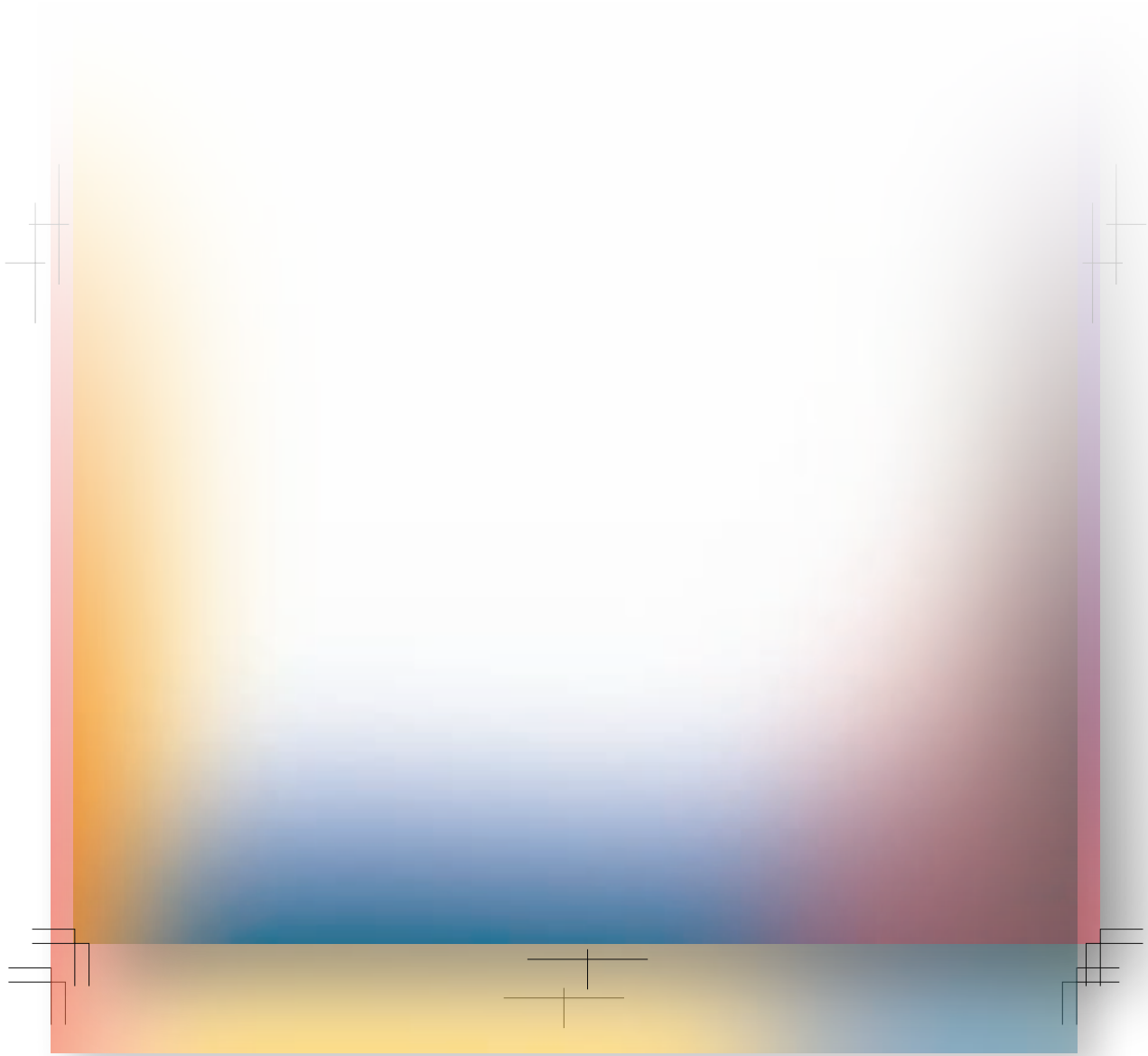
Adobe **InDesign** CS2 日本語



Adobe **Photoshop** CS2 日本語



Adobe **Acrobat** 7.0 Professional 日本語



アドビシステムズ株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー www.adobe.co.jp

Adobe Systems Incorporated 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA www.adobe.com

アドビカスタマーインフォメーションセンター（製品に関するお問い合わせ）

03-5350-0407 受付時間 9:30 ~ 17:30 土曜・日曜・祝休日および会社指定休日を除く

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、Adobe Illustrator、GoLive、InDesign、Photoshop、PageMaker、FrameMaker、PostScript は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。Microsoft、OpenType および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Macintosh は、米国およびその他の国における Apple Computer, Inc. の登録商標です。その他すべてのブランド名または製品名はそれらの所有者の商標もしくは登録商標です。

©2005 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed In Japan. ASJST507 6/05

大日本スクリーン製造株式会社 協力

